

みんなでつくる、
ミライのふるさと。

豊田市制70周年記念誌



市制70周年を記念して制作したロゴマーク

ベースデザインにつける色や模様を市民から募集し、応募作品699点の中から選定。ミライに向けて大きな花を開かせていくことと、豊田市の明るさや優しさを表現したデザインとなっています。



豊田市制70周年記念誌



The hometown of the future is built by all.

Toyota City aims to be a world leading manufacturing city. It's lushly green forests and gardens stretch across the land. Its history and culture shine with character distinct to each region. The many faces of Toyota City have built a place pioneering the future of every era. In March 2021, our city will celebrate its 70th anniversary. With the strength of its people always united, Toyota City will continue to develop as a welcoming hometown filled with joy using the wealth of resources left by its predecessors.

世界をリードするものづくりのまち。森林や田園が広がる恵み多き緑のまち。地域ごとの個性がきらめく歴史と文化のまち。そんな多様な顔を持つ豊田市は、いつの時代も「ミライ」を先取るまちづくりを行ってきました。

2021(令和3)年3月に市制70周年を迎えた、私たちのふるさと。これからも市民の力を結集し、先人から受け継いだ豊かな資源を生かしながら、笑顔あふれるふるさとを築いていきます。

みんなでつくる、
ミライのふるさと。



豊田市制70周年記念誌の発行に寄せて



豊田市長
太田 稔彦

豊田市は、1951（昭和26）年3月、県下で12番目に「挙母市」として市制を施行し、今年で70周年という記念すべき年を迎えました。

本市は、2005（平成17）年4月に7市町村が合併し、世界をリードするものづくり中枢都市としての顔を持つ一方、市域のおよそ7割を森林が占めるなど、様々な可能性を秘めた全国有数の都市へと発展を遂げました。今日の私たちの暮らしは、先人の礎のもと育まれ、築かれたものであり、これまでまちづくりに取り組まれた多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

この度、本市のこれまでの歩みを振り返り、次代につなげていくため、豊田市制70周年記念誌「みんなでつくる、ミライのふるさと。」を発行いたしました。記念誌をご覧いただいた皆様が「WE LOVEとよた」の思いのもと、より一層豊田市への愛着と誇りを持っていただけるきっかけとなれば幸いです。

70周年という節目を新たなスタートとし、本市の新しい未来に向けたさらなる一歩を踏み出してまいります。



豊田市議会議長
山田 主成

豊田市制施行70周年、誠におめでとうございます。この記念すべき「慶事」を、42万市民の皆様とともにお祝いできることを大変喜ばしく思います。本市は、1951（昭和26）年に市制施行し、幾度かの市町村合併を経て、今では世界に誇れるものづくり産業と、豊かな自然や文化、歴史など多くの地域資源に恵まれた都市に発展しました。

今日までの豊田市の発展は、先人たちのたゆまぬ努力と情熱があったからこそであり、心から敬意を表し、深く感謝を申し上げます。また市民の皆様におかれましては、新しい時代にふさわしい豊田市発展のために、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

市議会といたしましても、市政発展にご尽力いただいた先人たちの志を忘れることなく、市民の皆様の負託に応えるため、今後も安全・安心で住みよいまちの発展に寄与するように全精力を傾けて取り組んでまいります。

結びに、市制施行70周年を契機に、豊田市のさらなる発展を祈念申し上げ、発行に寄せるあいさついたします。

豊田市制70周年記念誌 目次

みんなでつくる、
ミライのふるさと。 01

豊田市制70周年記念誌の発行に寄せて 03

巻頭対談 私たち一人一人の挑戦が、
ふるさとのミライを輝かせる。 05

東京理科大学名誉教授 藤嶋昭 × 豊田市長 太田稔彦

豊田市制70年の歩み 11

新型コロナウイルス感染症に関する記録 30

特集1 世界最高峰のラグビーに感動

ラグビーワールドカップ2019TM in 豊田スタジアム 33

- 招致から開催までの道のり 34
- 開催レポート 豊田市全体が熱気の渦に 35
- 姫野和樹選手インタビュー 37
- 市民ボランティアの活躍 39
- ミライにつながるレガシー 41

特集2 WE LOVEとよた

- みんなで取り組む「WE LOVEとよた」とは？ 43
- スペシャルサポーターからのメッセージ 45
- サポーターズからのメッセージ 49
- WE LOVEとよたフェスタ 52
- 70組の「わたしの好きなとよた」 53

特集3 ミライへの挑戦

- ミライのフツーツを創ろう 57
- モビリティのミライ 59
- ものづくりのミライ 61
- 地域づくりのミライ 63
- いなか暮らしのミライ 65

70年の先へ

- 豊田市が進めるまちづくり 67
- 姉妹都市からのメッセージ 75
- 豊田市の文化財 77
- 豊田市の名所 79
- 豊田市の名産品 81
- 豊田市のデータ集 83
- 市役所・市議会 84
- 豊田市名誉市民 85
- 市章・市の花・市の木・豊田市民の誓い 87

私たち一人一人の挑戦が、 ふるさとのミライを輝かせる。

豊田市制70周年の記念対談にお迎えしたのは、光触媒研究の第一人者として活躍されている藤嶋昭さんです。豊田市で幼少期を過ごした藤嶋さんは2021(令和3)年3月、豊田市名誉市民として推挙されました。対談では「世の中に役立つこと」を探究し続ける研究者としての信念、次代を担う子どもたちへの思いなどとともに、ふるさとの思い出やこれからの豊田市について太田稔彦市長とお話いただきました。

巻頭対談

東京理科大学名誉教授

豊田市長

藤嶋 昭

太田 稔彦

PROFILE

1942(昭和17)年 東京都生まれ
1944(昭和19)年 豊田市(現在の足助地区)に疎開のため移住
2005(平成17)年 東京大学特別名誉教授就任
2010(平成22)年 東京理科大学学長就任(～2018(平成30)年)
2017(平成29)年 文化勲章受章
2018(平成30)年 東京理科大学名誉教授就任
2021(令和3)年 豊田市名誉市民推挙

PROFILE

1954(昭和29)年 豊田市生まれ
2012(平成24)年 第8代豊田市長就任
2016(平成28)年 豊田市長再任(2期目)
2019(令和元)年 中核市長長会会長就任
2020(令和2)年 豊田市長再任(3期目)

コロナ禍において注目される 光触媒のパワー

太田市長 この度は、豊田市名誉市民の称号をお受けくださって、ありがとうございます。
藤嶋さん こちらこそ、ありがとうございます。大変光栄なことです。私は2歳から12歳までの10年間、父の出身地である足助地区・旧盛岡村で暮らしました。私にとって豊田市は大切なふるさとですから、豊田市名誉市民に推挙いただき、とても嬉しく思っています。

太田市長 藤嶋先生は地元の誇りですから。市制70周年の節目の年にこうしてお話ができ、光栄です。藤嶋先生が発見された「光触媒」は、新型コロナウイルスが世界中に蔓延する今、医療現場などでの活用が広がっているそうですね。

藤嶋さん そうですね。抗菌・抗ウイルス効果がある光触媒は、以前から手術室の壁にコーティングされ、衛生的な環境の維持に使われてきました。コロナ禍においては、光触媒を採用した空気清浄機を医療機関、特に医療スタッフの控室で使うケースが増えていくようです。さらに、光触媒関連の新たな製品を開発している企業もあります。新型コロナウイルスの感染予防にも光触媒が役立てられていて、研究に力を注いで良かったと感じています。

太田市長 光触媒について、改めてご説明いただけますか。

藤嶋さん 光触媒とは、光が当たった時に

働く触媒のこと。その主な物質が酸化チタンです。酸化チタンの表面に光が当たると、強い酸化力が生じて水が分解されます。
太田市長 「分解」というところが光触媒のすごい点でしょうか。
藤嶋さん そうですね。酸化チタンに光が当たって起こる化学反応によって、ウイルスや有害物質、油污れなど多くのものを分解できるのです。

人の役に立つものを 世界中に届けたい

太田市長 光触媒を発見したのは、どんなことがきっかけでしたか。

藤嶋さん 東京大学大学院に進学して1年ほどが経った1967(昭和42)年の春、電池

の電極に関する実験をしていた時のことです。酸化チタンの電極と白金の電極を導線でつないで水に入れ、酸化チタン電極に強い光を当てると、それぞれの電極の表面から勢いよく泡が出ることに気づきました。何だろうと調べてみると、その泡は酸素と水素。つまり、水が分解されていたのです。この時、光触媒の元となる原理を発見しました。
太田市長 その成果は1972(昭和47)年に世界的な学術雑誌『ネイチャー』に掲載され、1973(昭和48)年の第一次オイルショックの時に世界中で話題になったそうですね。

藤嶋さん 「石油がなくても水を原料にして水素が取れる」ということに、当時は注目が集まっていました。私は光触媒の現象を「人工的な光合成」と捉え、葉っぱの葉緑素の代わりを酸化チタンが果たしているのだと思い、感動しましたね。

太田市長 画期的な原理を発見するだけではなく、世の中に役立つ製品の開発につなげたことも、藤嶋先生の大きなご功績だと思います。

藤嶋さん いかに日常生活で使えるかという視点を大切に、これまで光触媒の研究を進めてきました。酸化チタンが持つ強い酸化力と超親水性の光触媒作用を応用し、汚れを防ぐ建築材、曇らない車のドアミラー、大気を浄化する外壁材、空気清浄機などの製品が生まれています。世界中で使っていただけで嬉しい限りです。

Prefatory Interview

Fujishima Akira, Honorary Emeritus Professor of Tokyo University of Science × Ota Toshihiko, Mayor of Toyota City

Toyota City has nominated Mr. Fujishima Akira as an honorary citizen. Mr. Fujishima discovered a photo catalysis that breaks down viruses, hazardous substances, oil grease stains, and other types of matter with exposure to light. As the novel coronavirus spreaded throughout the world, medical institutes and other facilities adopted air purification systems using his photo catalysis. His experiments with electrodes in graduate school led to his discovery of this photo catalysis process. His findings were even covered in the world-renowned Nature science magazine. As he has advanced his research, Mr. Fujishima has taken care to find applications for his discovery in daily life.

研究者としての原点は 佐切小学校での学び

太田市長 今回の対談の前に母校である佐切小学校に行かれたそうですね。いかがでしたか。

藤嶋さん 同窓生たちが集まって歓迎してくれました。懐かしい思い出がよみがえってきましたね。祖父父母のお墓参りにも行ってきました。

太田市長 佐切小学校では毎年10月、ノーベル賞の発表の時期になると今年こそ藤嶋先生が受賞されるのではと「ノーベル賞受賞を待つ会」を開催しています。子どもたちもノーベル賞や科学を身近に感じているようですよ。日本広しといえども、ノーベル賞で毎年盛り上がる地域はそうそうあるわけではないですから、藤嶋先生の偉大さを感じています。

藤嶋さん 地域みなさんがイベントを開いてくださっていることに、本当に恐縮しています。何だか申し訳ない（笑）。でも大変光栄なことだと感謝しています。

太田市長 豊田市と足助町が合併したからこそ、藤嶋先生の活躍を「オールとよた」の喜びとして、市民みんなで分かち合っています。

藤嶋さん 足助町になる前、私が幼い頃は盛岡村でした。盛岡村立佐切小学校だったんです。それが足助町になってすごいなと思っていたら、今度は豊田市。出身地を聞かれたとき「豊田市です」と答えられることが

私の自慢ですよ。

太田市長 佐切小学校時代には、どんな思い出がありますか。

藤嶋さん 一番の楽しみだったのが、佐切小学校で時々行われていた映画上映会。母親と一緒に、真っ暗な夜道を歩いて行ったことを覚えています。懐中電灯はない時代ですから、空き缶にろうそくをつけて、ほのかな灯りで照らしながら行くんです。流れ星やホタルがきれいだね。映画だけでなく、その行き帰りも楽しい思い出です。

太田市長 学校生活はいかがでしたか。

藤嶋さん 6年生の時の理科の授業は今でも印象に残っています。クラスが半分ずつに分かれて「情報収集にはラジオが良いか新聞が良いか」という論戦を繰り広げました。自分たちで考えて意見を言い合う授業は珍しかったですから、忘れられない経験になりました。また、当時使われていた単位は尺貫法でしたが、メートル法を教わったことも衝撃的でした。先生が1リットルのビーカーに水を入れて「1リットルの水の重さは1キログラムだよ」と言いました。それまで当たり前に思っていた一貫目、一匁、一尺、一寸という単位とは違う概念に驚いて、「もっといろいろなことを知りたい」と好奇心が刺激されたのです。そんな学びのおもしろさを体感したことが、研究者の道を進むことになった原動力なのかもしれません。

雑草という草はない

太田市長 私は以前、藤嶋先生のお話を伺い、印象に残っているエピソードがあります。戦時中に東京から疎開で盛岡村に来た時、都会とは違って何もなかったけれど、ホタルの灯りを数えたり、雲の動きを見て次の日の天気を予想してみたり、何にでも興味を持たれたそうですね。それがおそらくご自身にとっての出発点だろうと藤嶋先生がおっしゃっていました。

藤嶋さん そうです。身のまわりにある自然には、不思議なこと、おもしろいことがあふれていますからね。いかに関心を持つかが

大事です。牧野富太郎という有名な植物学者が「雑草という草はない」という言葉を残しています。雑草という草はなくて、どんな小さな植物にも名前があるんですよ。草花の名前を覚えただけで、普段何気なく通る道も景色が違って見えるでしょう。関心を持つことが、自分の視野を広げる第一歩だと思います。

太田市長 ものが満ち足りて、いろんな情報にあふれる世の中では、何気ないものに目を向けることが少なくなっているように感じます。物質的な豊かさだけではなく、心の豊かさを求めることが、これからの社会においてますます重要ですね。心豊かな日々を過ごせるように、豊田市では各地区で大切にされてきた身近な地域資源の価値や可能性・多様性をみんなで共有する「WE LOVEとよた」の取組を広げてきました。それぞれが実感している豊田市の魅力を伝え合い、一緒に楽しもうというムーブメントが市民に広がっています。何気ないまちの風景も尊いものとして捉え、大切にしていきたいという市民の思いや行動が、豊田市を「わくわくする世界一楽しいふるさと」に育てていくと信じています。

藤嶋さん まちの魅力を再発見し、次の世代につないでいくための素晴らしい取組ですね。私は大切なものを見落とさないよう、日頃から何でもメモするようにしています。心が動かされたこと、不思議だなと感じたことなど、すべて手帳に書き残しておくので



母校を見学しながら、思い出を振り返る藤嶋さん

Mr. Fujishima visited his alma mater Sagiri Elementary School before his interview with Mayor Ota Toshihiko. Many of his old classmates joined to welcome him with a warm reception of renewed friendship. Mayor Toshihiko touched on the Nobel Laureate Forum held every October before asking Mr. Fujishima about his time at Sagiri Elementary School. Mr. Fujishima said learning about meters, liters and other units of measurement in science class made quite an impression. At a time when Japan still commonly used its own units of measurement, the metric system had piqued the curiosity of young Fujishima. This experience was one that evoked his interest even in the ordinary and expanded his view of the world around him. Inspired by Mr. Fujishima's words, Mayor Ota Toshihiko introduced the WE LOVE TOYOTA initiative that shares the value of local resources as well as the diversity and potential of the entire city.



佐切小学校で一緒に学んだ藤嶋さんと同窓生のみなさん

子どもたちにも 学ぶ楽しさを伝えたい

太田市長 藤嶋先生は以前から、科学のおもしろさを伝える講演会や読書推進など、子どもたちを対象とした活動にも尽力されていますね。豊田市では小・中学校などで講演会「藤嶋塾」を開催していただき、子どもたちにとって授業とはまた違った学びの場になっています。また、藤嶋先生から寄贈いただいた本は、先生の母校である佐切小学校で「藤嶋文庫」と名付けられ、多くの子どもたちが科学などに関心を持つきっかけになっています。

藤嶋さん 小学生や中・高生のみなさんに向けた講演会を行う時は、「身近なものの不思議」を題材にお話をしています。たとえば、空はなぜ青いのか。雲はなぜ白いのか。当たり前のこととして普段は気にも留めないけれど、なぜなのか答えるのは難しい問題ですよね。でも、それぞれ理由がちゃんとあるんです。その理由を探っていくと、科学の奥深さを感じて、物事の捉え方も変わってきます。

太田市長 ものの見方とか視点というのは、科学に限らず大切ですよ。

藤嶋さん その通りです。多角的な視点は、いろんなジャンルの本を読むことで身につきます。今回の対談に先立ち、佐切小学校を訪れた時、図書室にも寄ったのですが、藤嶋文庫以外にも本がたくさんありました。私が小学生の頃には考えられなかったこ

より良いミライに向かって ともに挑み続ける

太田市長 藤嶋先生が新たにチャレンジしたいと思っていることは何でしょうか。

藤嶋さん 光触媒による水処理です。非常に難しく、まだ研究段階。世界中の飲み水をきれいにすること、汚れた池をきれいにすることが目標です。今は東京のお堀を美しくできないかなと思って、水処理用フィルターなどを検討しています。「太陽光によって、汚れた水を自然にきれいにする」技術を、未来のために実現していきたいですね。

太田市長 素晴らしい！その技術が確立すると、世の中のいろんな問題が解決しますね。

藤嶋さん 太田市長はどんなことにチャレンジしていきたいですか。

太田市長 私は3期目の市政経営に全力で取り組みたいと思っています。人口減少や少子高齢化の進展、第4次産業革命、災害の激甚化など、これまで経験したことのない時代へと移っていく現代。先人の進めてこられた歩みと、市民一人一人の思いをしっかりと未来につなぐためのまちづくりを進めます。「すくすく」「育つまち」、「ゆうゆう」暮らせるまち、「いきいき」活躍できるまち、「わくわく」楽しいまち、「こつこつ」備えるまちの5つを柱として掲げ、安全・安心なまちづくり、元気で明るいまちづくりに挑み続けたいと考えています。

藤嶋さん 豊田市は日本だけでなく世界的にも名の知れたまちですから、これからの発展にも期待しています。私もふるさと・豊

と。学校には勉強する機会が数多く用意されていますから、子どもたちは積極的に活用して、自分からいろんなことを吸収してほしいなと期待しています。

太田市長 オンライン藤嶋塾なども開催して、より多くの子どもたちに学ぶ楽しさを伝えていきたいですね。豊田市は、豊かな人間性を育むための教育環境づくりを推進しています。地域の宝である子どもたちがそれぞれの個性や可能性を伸ばしていけるように、多彩な学びのチャンスを提供していきたいと思います。藤嶋先生、またぜひご協力をお願いいたします。

藤嶋さん 佐切小学校でも藤嶋塾を開催させていただき、私も後輩である子どもたちと交流できて嬉しいです。貴重な機会をつくっていただいて、本当にありがたいと思っています。



田市のために何かお力になればと、今後藤嶋塾などを行っていきます。

太田市長 ありがとうございます。藤嶋先生には、「WE LOVE」とよたスペシャルサポーター」の一人として豊田市の魅力も発信していただいていますね。豊田市の将来に対して、何かご要望はありますか。

藤嶋さん 日本は資源が限られた国ですから、未来を担う人材の育成、科学技術の研さんが重要です。自動車産業をはじめ「ものづくり」が盛んな豊田市を中心にして、科学技術をどんどん発展させていってほしいなと思っています。それは豊田市のためだけではなく、日本のため、アジアのため、世界のためになるでしょう。

太田市長 そうですね。未来に向けて豊田市が培ってきた強みにさらなる磨きをかけ、「子どもたちへつなぐ安心で活力と魅力あるまち豊田」の実現に力を注いでいきます。引き続き、藤嶋先生にはご指導いただきますよう、よろしく願っています。

藤嶋さん 私も研究活動や後進育成にますます励んでいきます。また、藤嶋塾などで豊田市にお伺いしますね。



「WE LOVE とよたスペシャルサポーター」の任命式の様子



In order to promote and spread the fun of science, Mr. Fujishima holds the Fujishima Science Classroom at local elementary, junior high and high schools. He also donated this alma mater with a wide range of books establishing the Fujishima Book Corner at Sagiri Elementary School to be actively used by its students.

At the end of the interview, Mayor Ota asked a question about the future. Mr. Fujishima explained his vision of using the photo catalysis he discovered to realize water processing that uses sunlight to purify dirty water naturally. Mr. Fujishima then threw the same question out to Mayor Ota. The Mayor of Toyota City pointed to rapid educational development, a leisurely lifestyle, enthusiastic engagement, thrilling entertainment, and steadfast readiness as five pillars for safe and secure urban development—an endeavor he hopes will continue to build a bright, energetic city.



「藤嶋塾」は、豊田市が独自に開催する、藤嶋さんを講師に迎えた講演会です。ものづくりなどの将来を担う人材育成の一環として、ご自身の研究活動や科学のおもしろさなどについて語っていただいています。これまでに小・中学校を中心に、中央図書館、交流館など市内の各所で開催しました。

- 1951 ● 9月 ● サンフランシスコ平和条約の調印
● 日米安全保障条約を締結
- 1952 ● 7月 ● ヘルシンキ五輪の開催
8月 ● 国際通貨基金(IMF)・世界銀行への加盟
- 1953 ● 2月 ● NHKテレビ本放送の開始
12月 ● 奄美諸島の返還
- 1954 ● 6月 ● 日本初の電波塔・名古屋テレビ塔が完成
7月 ● 防衛庁、自衛隊が発足
- 1955 ● 8月 ● 第1回原水爆禁止世界大会の開催
- 1956 ● 11月 ● メルボルン五輪の開催
12月 ● 日本が国際連合に加盟(国際社会への復帰)
- 1957 ● 4月 ● アジアかぜ(インフルエンザ)の流行
10月 ● ソ連が人類初の人工衛星を打上げ
- 1958 ● 5月 ● 第3回アジア競技大会を東京で開催
12月 ● 東京タワーの完工式
- 1959 ● 4月 ● 皇太子殿下(現・上皇、上皇后両陛下)がご成婚
- 1960 ● 8月 ● ローマ五輪の開催
9月 ● カラーテレビ本放送の開始

豊田市のできごと

- 1951 昭和26年 ● 3月 ● 市制を施行し、「挙母市」が誕生
● 初代市長に渡邊汎吉氏
11月 ● 市章を制定
- 1952 昭和27年 ● 11月 ● 市教育委員会が発足
- 1953 昭和28年 ● 1月 ● 挙母商工会議所が発足
4月 ● 市内の巡回バスが開始
- 1954 昭和29年 ● 7月 ● 工場誘致奨励条例を施行
● 挙母警察署が発足
- 1955 昭和30年 ● 3月 ● 皇太子殿下(現・上皇陛下)がトヨタ自動車工業をご見学
5月 ● 2代目市長に中村寿一氏
- 1956 昭和31年 ● 2月 ● 3代目市長に長坂貞一氏
4月 ● 市消防署が発足
● 明治用水頭首工(水源橋)が完成
7月 ● 挙母市と西加茂郡高橋村を結ぶ高橋が開通
9月 ● 西加茂郡高橋村と合併
10月 ● 市上水道通水式の開催
- 1957 昭和32年 ● 4月 ● 昭和天皇、皇后両陛下がトヨタ自動車工業をご見学
- 1958 昭和33年 ● 5月 ● イラン皇帝がトヨタ自動車工業をご見学
- 1959 昭和34年 ● 1月 ● 市名を「豊田市」に変更
9月 ● 伊勢湾台風により大きな被害
- 1960 昭和35年 ● 5月 ● 中学校の学校給食を開始
7月 ● 名誉市民条例を施行
9月 ● 米国デトロイト市と姉妹都市提携を締結



挙母市と西加茂郡高橋村を結ぶ高橋が開通 1956(昭和31)年



伊勢湾台風により大きな被害 1959(昭和34)年

70-year History of Toyota City

Long ago, Toyota City had been known as a textile-manufacturing pole (The ancient name for Toyota, Koromo, refers to clothing or textile industry) blessed with beautiful mountains and rivers or pure water. As time passed, the town grew from the Koromo Domain to the Koromo Village and Koromo Town before being organized as a city 70 years ago to forge a new history moving forward. Let us take a look back on the history of Toyota City that has cultivated powerful industry and rich culture as it evolved into a city overflowing with diversity and potential.

●1951-1960

Organization as a city launched Toyota from textile manufacturing pole to a corporate metropolis.

The Koromo Town reorganized itself as Koromo City as reconstruction began in the aftermath of World War II in 1951. This new city had a population of 32,400 people at the time. It erupted in a festive mood with celebrations held over five days. In 1959, after an intense debate that almost divided the city into two, Koromo City changed its name to Toyota City. The transformation promised development as a corporate metropolis as it took its first step renewed as Toyota City.

豊田市制 70年の歩み



市制を施行し、「挙母市」が誕生 1951(昭和26)年



米国デトロイト市と姉妹都市提携を締結 1960(昭和35)年



市名を「豊田市」に変更 1959(昭和34)年

市制を施行し、
衣の里から企業都市へと飛躍

戦後の混乱から復興し始めた1951(昭和26)年、挙母町は「挙母市」になりました。当時の人口は約3万2,000人。まちはお祝いムードに包まれ、祝賀行事が5日間行われました。1959(昭和34)年には、市を二分するほどの議論の末、市名を変更。企業都市として発展することを誓い、「豊田市」として新たな歩を踏み出しました。

美しい山々や清らかな河川に恵まれ、古くは「衣(ころも)の里」と呼ばれていた豊田市。時代とともに挙母藩、挙母村、挙母町へと発展し、70年前には市制を施行して新たな歴史を紡いできました。活力ある産業や豊かな文化が育まれ、多様性・可能性にあふれるまちに進化してきた豊田市の歩みを振り返ります。

- 1961 ● 4月 ● ソ連が世界初の有人宇宙飛行
- 1962 ● 5月 ● 国立がんセンターが診療を開始
- 1963 ● 11月 ● ケネディ大統領暗殺事件
- 1964 ● 10月 ● 東海道新幹線が開業
● 東京五輪の開催
- 1965 ● 3月 ● ソ連が人類初の宇宙遊泳
7月 ● 日本初の高速道路・名神高速道路が全線開通
- 1966 ● 6月 ● ビートルズが来日
- 1967 ● 8月 ● 公害対策基本法の公布
- 1968 ● 6月 ● 小笠原諸島の返還
10月 ● メキシコシティ五輪の開催
- 1969 ● 5月 ● 東名高速道路が全線開通
7月 ● アポロ11号が月面着陸
- 1970 ● 2月 ● 日本初の人工衛星「おおすみ」を打上げ
3月 ● 大阪万博の開催

豊田市のできごと

- 1961 昭和36年 ● 6月 ● 名鉄豊田市駅新駅舎が完成
7月 ● トヨビルが完成
- 1962 昭和37年 ● 4月 ● 久澄橋が鉄骨永久橋となり開通
9月 ● 県厚生連・加茂病院が移転
- 1963 昭和38年 ● 1月 ● 10万都市を構想した市役所新庁舎（東庁舎）が完成
4月 ● 豊田工業高等専門学校が開校
- 1964 昭和39年 ● 2月 ● 4代目市長に佐藤保氏
3月 ● 碧海郡上郷町と合併
- 1965 昭和40年 ● 3月 ● 市の花が「ひまわり」に決定
4月 ● 鞍ヶ池公園がオープン
9月 ● 碧海郡高岡町と合併
- 1966 昭和41年 ● 3月 ● 第1次豊田市総合計画を策定
8月 ● デトロイト市へ第1回学生親善使節を派遣
- 1967 昭和42年 ● 1月 ● 郷土資料館と民俗資料館が完成
4月 ● 西加茂郡猿投町と合併
- 1968 昭和43年 ● 4月 ● 東名高速道路が岡崎―豊田―小牧間で開通
● ひまわり学園が開園
8月 ● 第1回豊田まっりの開催
- 1969 昭和44年 ● 10月 ● 野見山山頂に展望台が完成
- 1970 昭和45年 ● 3月 ● 図書館が完成
4月 ● 東加茂郡松平町と合併
7月 ● 市消防本部庁舎が完成
8月 ● 体育館が完成
10月 ● 国鉄岡多線（現・愛知環状鉄道）の岡崎―北野柵塚間（8.7キロメートル）が開通



名鉄豊田市駅新駅舎が完成 1961（昭和36）年



鞍ヶ池公園がオープン 1965（昭和40）年



碧海郡高岡町と合併 1965（昭和40）年

●1961-1970

The municipality boomed together with growth of the automotive industry.

Japan also drove forward into an era of rapid economic growth. Toyota Motor Corporation increased annual vehicle production twenty fold between mid-1940s and mid-1960s and quickly expanded to more than 100 automotive component factories in the city. The population grew in the city alongside the automotive industry and other subsequent development that came with it. The urban landscape was completely transformed by the construction of housing complexes, schools, parks and the Toyotashi Station surroundings.

自動車産業の成長と合併により
市勢が急速に拡大

日本全体が高度経済成長に突き進んでいた時代。トヨタ自動車の年間生産台数が昭和30～40年代で約20倍になり、市内の自動車部品工場も100以上に急増しました。自動車産業の発展や相次ぐ合併による市域の拡大とともに人口も増加。住宅や小・中学校、公園、豊田市駅周辺などが順次整備され、まちの風景が大きく変わっていきました。



トヨビルが完成 1961（昭和36）年



第1回豊田まっりの開催 1968（昭和43）年

- 1971 ● 7月 ● 環境庁を設置
8月 ● ドル・ショック
- 1972 ● 2月 ● 札幌五輪の開催
5月 ● 沖縄の返還
- 1973 ● 2月 ● 円変動相場制に移行
10月 ● 第1次オイルショック
- 1974 ● 5月 ● 伊豆半島沖地震
- 1975 ● 5月 ● エリザベス女王が来日
- 1976 ● 7月 ● モントリオール五輪の開催
- 1977 ● 7月 ● 日本初の気象衛星「ひまわり」を打上げ
10月 ● テレビ放送が完全カラー化
- 1978 ● 8月 ● 日中平和友好条約の調印
- 1979 ● 1月 ● 大学共通一次試験の開始
10月 ● 御嶽山が噴火
- 1980 ● 5月 ● モスクワ五輪ボイコット問題
9月 ● イラン・イラク戦争

豊田市のできごと

- 1971 昭和46年 ● 3月 ● 市の木が「けやき」に決定
● 市役所西庁舎が完成
4月 ● 市の人口が20万人を突破
6月 ● 矢作ダムが完成
- 1972 昭和47年 ● 4月 ● 猿投グリーンロードが開通
6月 ● 渡刈清掃工場が操業開始
7月 ● 集中豪雨により大きな被害
- 1973 昭和48年 ● 3月 ● 名鉄挙母線が廃止
- 1974 昭和49年 ● 4月 ● 老人福祉センター豊寿園が完成
- 1975 昭和50年 ● 5月 ● 少年自然の家が完成
11月 ● 文化芸術センター(現・市民文化会館小ホール)が開館
- 1976 昭和51年 ● 2月 ● 5代目市長に西山孝氏
4月 ● 福祉センターが開館
● 国鉄岡多線(現・愛知環状鉄道)の岡崎-新豊田間が開通
- 1977 昭和52年 ● 2月 ● 市交通安全市民会議が発足
- 1978 昭和53年 ● 2月 ● 矢作川水源基金を設立
3月 ● 「豊田市民の誓い」を制定
- 1979 昭和54年 ● 4月 ● 豊田加茂広域市町村圏ごみ処理場「藤岡プラント」が完成
● デトロイト市からシベリアタイガー「オマー」が鞍ヶ池公園へ
8月 ● 名鉄豊田新線(現・豊田線)が開通
- 1980 昭和55年 ● 4月 ● 西山町に豊田地域医療センターを開設
10月 ● 第1回豊田マラソン大会の開催



矢作ダムが完成 1971(昭和46)年



デトロイト市からシベリアタイガー「オマー」が鞍ヶ池公園へ 1979(昭和54)年



第1回豊田マラソン大会の開催 1980(昭和55)年

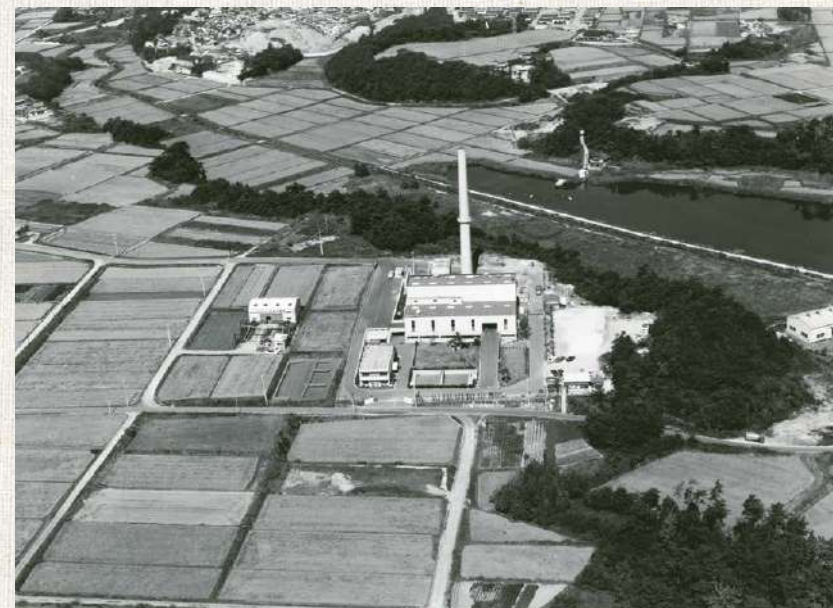
●1971-1980

Social infrastructure developed with the prosperity of city life.

With the popularization of personal cars, new roads and the corresponding infrastructure were built. The standard of life also improved, but the high-consumption society produced large amounts of waste. The social infrastructure necessary to support urban lifestyles evolved in Toyota City, including the launch of the Togari Sanitation Center.



猿投グリーンロードが開通 1972(昭和47)年



渡刈清掃工場が操業開始 1972(昭和47)年

暮らしの豊かさに合わせ、社会インフラの整備が進展
マイカーの普及とともに、新たな道路の建設や改良工事が急速に進められました。一方で、生活水準が向上し、大量消費社会となることで、たくさんのごみが発生しました。市内では渡刈清掃工場が操業を開始するなど、市民の暮らしを支えるインフラの整備が進展。公害対策にも早くから取り組み、自然環境との共生を目指す豊田市の基盤が築かれました。

- 1981 ● 4月 ● マザー・テレサが初来日
- 1982 ● 6月 ● 東北新幹線(大宮駅ー盛岡駅間)が開業
11月 ● 上越新幹線(大宮駅ー新潟駅間)が開業
- 1983 ● 4月 ● 東京ディズニーランドが開園
- 1984 ● 7月 ● ロサンゼルス五輪の開催
- 1985 ● 3月 ● 国際科学技術博覧会(科学万博つくば'85)の開催
8月 ● 日航ジャンボ機墜落事故
- 1986 ● 4月 ● 男女雇用機会均等法を施行
● チェルノブイリ原発事故
- 1987 ● 4月 ● 国鉄の分割民営化
5月 ● 第1回ラグビーワールドカップの開催
- 1988 ● 9月 ● ソウル五輪の開催
- 1989 ● 1月 ● 昭和天皇が崩御、「平成」に改元
4月 ● 消費税がスタート(3%)
7月 ● 名古屋で世界デザイン博覧会の開催
11月 ● ドイツ「ベルリンの壁」が崩壊
- 1990 ● 1月 ● 大学入試センター試験の開始
11月 ● 雲仙普賢岳が噴火

豊田市のできごと

- 1981 ● 4月 ● 豊田地域文化広場が開館
昭和56年 7月 ● 豊田市民文化会館が開館
- 1982 ● 3月 ● 公設地方卸売市場がオープン
昭和57年 4月 ● 青少年センターが開所
- 1983 ● 4月 ● 民芸館が開館
昭和58年 8月 ● 全国高校総体ハンドボール競技を
皇太子殿下、同妃殿下(現・上皇、上皇后
両陛下)がご観戦
11月 ● サン・アビリティーズ豊田が開館
- 1984 ● 8月 ● 市の人口が30万人を突破
昭和59年
- 1985 ● 3月 ● 名鉄三河線の西中金ー猿投間(8.5キロメートル)
昭和60年 がレールバスで運行を開始
4月 ● 松平郷館がオープン
7月 ● 豊田産業文化センターが開館
- 1986 ● 10月 ● シベリアタイガーの赤ちゃん「トト」「ミミ」が誕生
昭和61年 12月 ● 猿投棒の手ふれあい広場が完成
- 1987 ● 10月 ● 運動公園陸上競技場が完成
昭和62年
- 1988 ● 1月 ● 愛知環状鉄道が開業
昭和63年 2月 ● 6代目市長に加藤正一氏
4月 ● 市下水道の供用を開始
9月 ● ペDESTリアンデッキが完成
10月 ● 財団法人豊田市国際交流協会を設立
● 豊田そごうが開店
- 1989 ● 6月 ● 古瀬間聖苑が稼働
昭和64年 7月 ● 豊田まつりを豊田おいでんまつりにリニューアル
平成元年 8月 ● 初の中学生海外派遣を実施
- 1990 ● 3月 ● 豊田西バイパス全線が開通
平成2年 6月 ● 自然観察の森がオープン
9月 ● 日本文化デザイン会議'90豊田の開催
12月 ● CATVひまわりネットワークが開局



公設地方卸売市場がオープン 1982(昭和57)年



豊田産業文化センターが開館 1985(昭和60)年



豊田まつりを豊田おいでんまつりにリニューアル 1989(平成元年)

●1981-1990

Cultural promotion encouraged city residents to take center stage in developing the city.

This urban development recognized the age of local autonomy between mid-1970s and mid-1990s. Toyota City completed many large-scale facilities to promote local culture such as Toyota City Cultural Hall and Toyota Industrial Culture Center. 1989 saw the Toyota Festival reborn as the Toyota Oiden Festival. Today, this festival has become a predominate event in Toyota City adored by many local residents.

文化を振興し、
市民が主役のまちづくりを推進

地方の時代を意識し、まちづくりが行われた昭和50～60年代。豊田市民文化会館や豊田産業文化センターなど、市民の文化振興を図るための大型施設が相次いで完成しました。また、1989(平成元年)には、豊田まつりが「豊田おいでんまつり」にリニューアル。現在でも多くの市民に親しまれる、豊田市の代表的なイベントとなっています。



豊田市民文化会館が開館 1981(昭和56)年



愛知環状鉄道が開業 1988(昭和63)年

- 1991 ● 1月 ● 湾岸戦争
- 1992 ● 6月 ● 国連平和維持活動(PKO)協力が成立
7月 ● バルセロナ五輪の開催
- 1993 ● 5月 ● サッカー「Jリーグ」が発足
6月 ● 皇太子殿下(今上天皇)がご成婚
- 1994 ● 4月 ● 名古屋空港・中華航空機墜落事故
- 1995 ● 1月 ● 阪神・淡路大震災
3月 ● 地下鉄サリン事件
- 1996 ● 7月 ● アトランタ五輪の開催
● 病原性大腸菌「O157」の集団発生
- 1997 ● 4月 ● 消費税を5%に引上げ
● 容器包装リサイクル法を施行
- 1998 ● 2月 ● 長野五輪の開催
- 1999 ● 3月 ● NATOがユーゴ空爆を開始
5月 ● 人工ふ化でトキのひなが誕生
- 2000 ● 7月 ● 九州・沖縄サミットの開催
9月 ● シドニー五輪の開催

豊田市のできごと

- 1991 ● 5月 ● 平成記念橋が開通
平成3年
- 1992 ● 4月 ● 県立豊田高等養護学校(現・豊田高等特別支援学校)が開校
6月 ● 郷土資料館で織田信長像を初めて一般公開
7月 ● 英国オックスフォード大学ボドリアン図書館と国際交流宣言に調印
12月 ● 豊田内環状道路が全線開通
平成4年
- 1993 ● 11月 ● 新しい久澄橋が開通
平成5年
- 1994 ● 4月 ● 豊田養護学校(現・豊田特別支援学校)が開校
6月 ● デトロイト美術館と友好交流宣言書に調印
10月 ● 新消防庁舎の業務開始
● わかしやち国体(ラグビー、ハンドボール)を開催
平成6年
- 1995 ● 4月 ● 市駅東地区再開発ビル・ギャザが完成
11月 ● 美術館が開館
平成7年
- 1996 ● 4月 ● こども発達センターが開館
平成8年
- 1997 ● 4月 ● 資源・ごみの分別収集を開始
● 豊田ほっとかんが完成
7月 ● インターネットに市ホームページを開設
平成9年
- 1998 ● 4月 ● 中核市に移行。市保健所を開設
11月 ● コンサートホール・能楽堂、中央図書館が開館
● 英国ダービーシャー県など3地域と姉妹都市提携を締結
平成10年
- 1999 ● 3月 ● 豊田大橋が開通
5月 ● 市役所南庁舎で業務を開始
平成11年
- 2000 ● 2月 ● 7代目市長に鈴木公平氏
9月 ● とよた子育て総合支援センターがオープン
● 東海豪雨により大きな被害
10月 ● 女子柔道田村亮子選手の金メダル獲得祝賀パレードに5万人の人出
11月 ● 水道水源保全基金事業を開始
平成12年



美術館が開館 1995(平成7)年



東海豪雨により大きな被害 2000(平成12)年



女子柔道田村亮子選手の金メダル獲得祝賀パレードに5万人の人出 2000(平成12)年

●1991-2000

Toyota reorganized as a core city to serve the needs of diverse citizens.

Toyota City became the first core city in Aichi Prefecture in 1998. By transitioning to a core city, Toyota City has gained control on Public Health and Welfare matters that were under the prefectural government control. This made possible Toyota City being more deeply involved with healthcare, welfare and other matters affecting the lives of local residents in order to provide services better tailored to local needs.



中核市に移行 1998(平成10)年



英国ダービーシャー県など3地域と姉妹都市提携を締結 1998(平成10)年

中核市に移行し、
多様な市民ニーズに対応

1998(平成10)年に県内初の中核市となった豊田市。中核市に移行したことで、県が行っていた事務のうち保健や福祉など市民生活に関わりの深い事務が移管され、より市民ニーズに沿ったサービスを提供できるようになりました。また、甚大な被害が発生した2000(平成12)年の東海豪雨を機に、災害に強いまちづくりに向けた自助・共助・公助の取組も広がっていきました。

- 2001 ● 9月 ● 米国で同時多発テロが発生
- 2002 ● 5月 ● サッカーFIFAワールドカップを日韓で共催
9月 ● 史上初の日朝首脳会談
- 2003 ● 3月 ● 米英軍がイラク攻撃を開始
- 2004 ● 8月 ● アテネ五輪の開催
10月 ● 新潟県中越地震
- 2005 ● 2月 ● 中部国際空港「セントレア」が開港
- 2006 ● 2月 ● トリノ五輪の開催
- 2007 ● 7月 ● 新潟県中越沖地震
10月 ● 郵政民営化
- 2008 ● 8月 ● 北京五輪の開催
9月 ● 米証券大手リーマン・ブラザーズが経営破綻、金融危機が世界に波及
- 2009 ● 1月 ● トヨタ自動車とGMを抜き販売台数世界一確定
- 2010 ● 2月 ● バンクーバー五輪の開催
10月 ● 名古屋市中で「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」の開催

豊田市のできごと

- 2001 平成13年 ● 7月 ● 豊田スタジアムがオープン
10月 ● 中核市サミットの開催
● 松坂屋豊田店がオープン
- 2002 平成14年 ● 4月 ● A館T-FACEに市駅西口サービスセンターなどがオープン
● 公民館が交流館に名称を変更
● 豊田加茂地域8市町村長による豊田加茂広域行政研究会が発足
● 豊田市、三好町、よつば、下山村のJAが合併し、JAあいち豊田が誕生
10月 ● 東海環状自動車道猿投山トンネルが貫通
11月 ● 豊田加茂8市町村合併研究会が発足
- 2003 平成15年 ● 3月 ● 伊勢湾岸自動車道豊田東インターチェンジが開通
● 矢作川豊田防災ステーションが完成
8月 ● コンサートホールにパイプオルガンが完成
11月 ● 西広瀬小学校の水質汚濁調査が連続1万日達成
12月 ● 伊勢湾岸自動車道豊田南インターチェンジが開通
- 2004 平成16年 ● 3月 ● 衣浦豊田道路が開通
● 名鉄三河線猿投～西中金駅間が廃線
4月 ● 日本赤十字豊田看護大学が開学
11月 ● 豊田加茂7市町村による合併協定調印式
12月 ● 伊勢湾岸自動車道(豊田南インターチェンジ～豊田ジャンクション)が開通
- 2005 平成17年 ● 3月 ● 東海環状自動車道が開通
● 東部丘陵線(リニモ)が開業
● 愛・地球博が開幕
4月 ● 西加茂郡藤岡町・小原村、東加茂郡足助町・下山村・旭町・稲武町と合併
11月 ● 近代の産業とくらし発見館がオープン
- 2006 平成18年 ● 3月 ● 豊田市民の誓いシンボルマークが決定
10月 ● 豊田ナンバーの交付を開始
11月 ● コモ・スクエアがオープン
- 2007 平成19年 ● 4月 ● スカイホール豊田がオープン
● 渡刈クリーンセンターがオープン
● 森づくり条例を施行
6月 ● 環境学習施設eco-T(エコット)がオープン
- 2008 平成20年 ● 1月 ● 加茂病院が浄水町に移転し、豊田厚生病院として開院
3月 ● 足助バイパスが開通
4月 ● 保育園と市立幼稚園の名称をこども園に統一
● 石畳ふれあい広場足湯がオープン
- 2009 平成21年 ● 1月 ● 東海地方で唯一の環境モデル都市に選定
12月 ● プラグインハイブリッド車の納車式
- 2010 平成22年 ● 4月 ● 交通安全学習センターがオープン
10月 ● おいでんバス豊田東環状線で燃料電池バスの運行を開始
11月 ● スカイホール豊田に武道館、サブホールがオープン
● 名古屋グランパスがJ1初優勝



豊田スタジアムがオープン 2001(平成13)年



愛・地球博が開幕 2005(平成17)年



豊田ナンバーの交付を開始 2006(平成18)年

●2001-2010

A new Toyota City came into fruition with the hope of becoming a city rich with creativity.

Seven towns and villages in the Yahagi River basin area with deep historical, cultural and lifestyle ties merged to Toyota City in 2005. The population grew to about 420,000 people and became the largest city in Aichi Prefecture accounting for almost 919 square kilometers. This merger started the new Toyota City on a path to protect the prosperity of life in the river basin by preventing forest devastation and declining regional vitality brought by an aging population with a dwindling birthrate and population outflow.

ゆたかき創造都市を目指し、
新・豊田市が誕生

歴史や文化、生活において深く関わり合ってきた矢作川流域の豊田加茂7市町村が、2005(平成17)年に合併しました。人口は約42万人、面積は県内最大の約918平方キロメートル。少子高齢化や人口流出による地域活力の低下、森林の荒廃などを防ぎ、流域の豊かな暮らしを守るため、新・豊田市として歩み始めました。



東海環状自動車道が開通 2005(平成17)年



豊田加茂7市町村による合併協定調印式 2004(平成16)年

- 2011** ● 3月 ● 東日本大震災、福島第一原子力発電所事故
7月 ● なでしこジャパンがワールドカップで優勝
- 2012** ● 5月 ● 東京スカイツリーが開業
7月 ● ロンドン五輪の開催
10月 ● 山中伸弥京大教授がノーベル生理学・医学賞を受賞
- 2013** ● 6月 ● 富士山が世界文化遺産に決定
9月 ● 2020五輪の東京開催が決定
12月 ● 特定秘密保護法が成立

豊田市のできごと

- 2011** ● 平成23年
3月 ● 東日本大震災被災地へ支援物資の提供
4月 ● 藤岡南中学校が開校
● 福祉センターが完成
6月 ● 足助町の歴史的町並みが県内初の重要伝統的建造物群保存地区に選定
● 美術館でフェルメール《地理学者》とオランダ・フランドル絵画展の開催
12月 ● 地域活性化総合特区として「次世代エネルギー・モビリティ創造特区」に指定
- 2012** ● 平成24年
2月 ● 8代目市長に太田稔彦氏
5月 ● とよたエコフルタウンがオープン
6月 ● とよたイノベーションセンターがオープン
7月 ● 矢並湿地、上高湿地、恩真寺湿地の3つの湿地が、東海丘陵湧水湿地群としてラムサール条約に登録
11月 ● 中央保健センター機能を含む市役所新東庁舎が完成
- 2013** ● 平成25年
5月 ● とよたエコフルタウンにスマートモビリティパークと水素ステーションがオープン
6月 ● 足助病院の改築事業が完了
7月 ● 西三河9市1町で西三河災害時相互応援協定を締結
8月 ● 旧鈴木家住宅16棟が重要文化財に指定
● おいでん・さんそんセンターが開所
10月 ● Ha:mo RIDEの実証運用を開始

●2011-2013

Toyota City promoted safe and secure urban development in anticipation of large-scale disasters.

Right after the Great East Japan Earthquake struck, Toyota City deployed fire fighters, officials, nurses and other relief workers to disaster-afflicted areas. These teams undertook efforts to recover public facility operations and support evacuation shelters. Toyota City capitalized on that experience in its own disaster prevention measures and conducted joint disaster drills with Aichi Prefecture. Toyota also entered into mutual disaster relief agreements with other municipalities as one aspect of measures to protect the precious life and lifestyles of the local people.



足助の歴史的町並みが県内初の重要伝統的建造物群保存地区に選定 2011(平成23)年



とよたエコフルタウンがオープン 2012(平成24)年



Ha:mo RIDEの実証運用を開始 2013(平成25)年



東日本大震災被災地へ支援物資の提供 2011(平成23)年



中央保健センター機能を含む市役所新東庁舎が完成 2012(平成24)年

大規模災害を想定した
安全・安心なまちづくりを推進

東日本大震災の発災直後から、豊田市は消防職員や行政職員、保健師などを被災地に派遣。公共施設の復旧業務、避難所支援業務などを行いました。その経験を市の防災対策に生かすとともに、愛知県との合同防災訓練の実施、他市町との災害時相互応援協定の締結など、尊い命や安全な暮らしを守るための取組を行っています。

- 2014** ● 2月 ● ソチ五輪の開催
4月 ● 消費税を8%に引上げ
9月 ● 御嶽山が噴火
10月 ● 日本人3人がノーベル物理学賞を受賞
- 2015** ● 3月 ● 北陸新幹線(長野駅ー金沢駅間)が開業
9月 ● 関東・東北豪雨
10月 ● マイナンバー法を施行
● ラグビーワールドカップ2015で日本代表が歴史的3勝
- 2016** ● 4月 ● 電力の小売全面自由化がスタート
● 熊本地震
5月 ● 伊勢志摩サミットの開催、オバマ大統領が広島を訪問
8月 ● リオデジャネイロ五輪の開催

豊田市のできごと

- 2014** ● 平成26年
3月 ● 構造改革特別区域「豊田市立ち乗り型パーソナルモビリティ実験特区」に認定
4月 ● 浄水北小学校が開校
6月 ● クルマづくり究めるプロジェクトがスタート
● 喜多町からとよたエコフルタウンヘクスノキを移植
10月 ● とよたまちさとミライ塾の初開催
● 高等学校魅力発見フェスタの初開催
● 地域自治シンポジウムin豊田の開催
- 2015** ● 平成27年
1月 ● とよた世界環境ウィーク2015の開催
● とよた防災サミットの開催
● トヨタ自動車の燃料電池自動車「MIRAI(ミライ)」を全国に先駆けて公用車として導入
3月 ● ラグビーワールドカップ2019の愛知県・豊田市での開催が決定
● 新☆豊田市10年祭〜とよたのチカラ! 満サイ展〜の開催
● 一級河川安永川改修事業トンネル区間が完成
4月 ● 動物愛護センターがオープン
● 徳川家康公400年祭記念大会の関連イベントがスタート
5月 ● あそべるとよたプロジェクトがスタート
7月 ● WE LOVEとよた商品券の販売
9月 ● ものづくりミライ塾が開講
12月 ● 獣肉加工処理施設が完成
- 2016** ● 平成28年
2月 ● 新東名高速道路(豊田東ジャンクションー浜松いなさジャンクション)が開通
4月 ● 浄水中学校と浄水交流館を合築で建設
● 寺部小学校と寺部こども園を合築で建設
● 民芸の森の一般公開を開始
7月 ● 美術館でジブリの立体建造物展の開催
● 都市対抗野球大会でトヨタ自動車(豊田市代表)が初優勝
8月 ● 大学生が学生機能別団員として消防団に初めて入団
● 豊田市スポーツ栄誉賞の創設
9月 ● とよた救急・子育てコール24〜育救さんコール〜を開設
10月 ● 豊田市つながる社会実証推進協議会が発足

●2014-2016

A renewed awareness strives to build a welcoming home-town through unity.

To commemorate the ten years since the 2005 merger, Toyota City launched the New Toyota City 10th Anniversary Project. This project looked back at the urban development that fostered 10 years of amazing business development and provided a platform for the New Toyota City 10th Anniversary Project: Power of Toyota local community campaign. This movement brought local citizens together to renew their desire to build a better city.



構造改革特別区域「豊田市立ち乗り型パーソナルモビリティ実験特区」に認定
2014(平成26)年



クルマづくり究めるプロジェクトがスタート 2014(平成26)年



徳川家康公400年祭記念大会の関連イベントがスタート 2015(平成27)年

ともにふるさとを築く、
決意を新たに

2005(平成17)年の合併から10年を迎えたことを記念して「新☆豊田市誕生10周年プロジェクト」を展開。まちづくりの振返りと展望を発信する「10年のキセキ展事業」、市民共働による「新☆豊田市10年祭」とよたのチカラ! 満サイ展」などが実施され、市民が一体となつてより良いまちを築く決意を新たにしました。



トヨタ自動車の燃料電池自動車「MIRAI(ミライ)」を全国に先駆けて公用車として導入 2015(平成27)年



新☆豊田市10年祭〜とよたのチカラ! 満サイ展〜の開催 2015(平成27)年

- 2017** ● 6月 ● 上野動物園でパンダ(シャンシャン)が誕生
7月 ● 九州北部豪雨
10月 ● 核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)がノーベル平和賞を受賞
- 2018** ● 2月 ● ビョンチャン五輪の開催
6月 ● 米朝首脳会談
● 西日本豪雨
9月 ● 台風21号が上陸し、関西国際空港で大きな被害
- 2019** ● 5月 ● 「令和」に改元
7月 ● 京都アニメーション放火事件
9月 ● 相次ぐ台風により東日本に大きな被害
10月 ● 消費税を10%に引き上げ

豊田市のできごと

- 2017** 平成29年 ● 2月 ● 一般社団法人おいでん・さんそんが設立
● 一般社団法人ツーリズムとよたが設立
4月 ● 「WE LOVE とよた」条例を施行
● 歌舞伎伝承館が開館
6月 ● 高校生消防クラブが発足
7月 ● 高岡コミュニティセンター内に健康と福祉の相談窓口を開設
● 成年後見支援センターを開設
9月 ● ものづくり創造拠点SENTANが開所
11月 ● KiTARAがオープン
- 2018** 平成30年 ● 1月 ● 豊田市を舞台とした映画「星めぐりの町」の全国上映が開始
2月 ● 女性しごとテラス Cappuccino(カプチーノ)を開設
4月 ● 人材創造拠点「つくラッセル」がオープン
● とよたシニアアカデミーが開講
6月 ● 防災ラジオの販売を開始
7月 ● 西日本豪雨被災地への支援
8月 ● 中核製材工場の本格稼働
10月 ● 原動機付自転車の図柄入りナンバープレートの交付を開始
11月 ● とよた子育て総合支援センター「あいあい」がリニューアルオープン
- 2019** 平成31年 令和元年 ● 3月 ● 豊田スタジアムを改修
● 新藤岡支所がオープン
4月 ● 消防用ドローンの運用が開始
● トヨタ自動車下山テストコースの一部が運用開始
5月 ● 新豊田駅東口駅前広場「新とよパーク」がオープン
6月 ● 豊田市駅東口ペDESTリアンデッキが完成
● 豊田北バイパス平戸大橋区間が開通
● すべての小・中学校に空調機を設置
7月 ● 美術館で「クリムト展 ウィーンと日本1900」の開催
8月 ● 都市計画道路豊田則定線「高橋」4車線が開通
● あいちトリエンナーレ2019の開催
9月 ● 豊田市駅東口まちなか広場「とよしば」がオープン
● ラグビーワールドカップ2019の開幕



KiTARAがオープン 2017(平成29)年



豊田市を舞台とした映画「星めぐりの町」の全国上映が開始 2018(平成30)年



とよた子育て総合支援センター「あいあい」がリニューアルオープン 2018(平成30)年

●2017-2019

Aiming to be a connected, creative and enjoyable Toyota City.

The 8th Toyota City Comprehensive Plan expanded a variety of initiatives to realize a connected, creative, and enjoyable Toyota City. The urban development undertaking took advantage of a wealth of natural, historical, cultural, manufacturing and many other resources.



中核製材工場の本格稼働 2018(平成30)年



ものづくり創造拠点SENTANが開所 2017(平成29)年

「つながる つくる 暮らし楽しむ まち・とよた」を目指して
2017(平成29)年3月、まちづくりの新たな総合計画として、第8次豊田市総合計画を策定しました。そこで構想された将来都市像「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」の実現に向け、様々な取組を展開。豊かな自然・歴史・文化、ものづくりなど多様な地域資源を生かしたまちづくりが進められました。

新型コロナウイルス感染症に関する記録



コロナ禍の通勤・通学風景。感染予防のためマスク着用が定着しました。



熱中症を予防しながらソーシャルディスタンスを保つ傘さし登校は童子山小学校から全国に広がりました。

Milestones During the Novel Coronavirus Pandemic

The turmoil of the novel coronavirus pandemic in 2020 brought insecurity and confusion to the world. In May when the state of emergency was lifted, Toyota City gradually opened its economy as well as schools, daycare centers and public institutions. Every measure to prevent the spread of the novel coronavirus from washing hands, wearing masks, and avoiding the Three C's — closed spaces, crowded places, and close-contact settings — furthered efforts to return to normal daily life.



感染拡大防止のため、商業施設などでも検温を実施



市内の各校は、規模を縮小するなど感染症対策を行い卒業式を挙げる

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、世界中に不安や混乱が広がった2020(令和2)年。
豊田市では市民の健康や安全を最優先に、様々な取組を行いました。

市民生活の変化

2020(令和2)年、未知の感染症「新型コロナウイルス感染症」が世界中に拡大し、各地で猛威を振るいました。

世界保健機関(WHO)が新型コロナウイルスに対して「世界的な大流行(パンデミック)」と言える」との認識を示したのは3月。日本では全国の学校に臨時休校の要請が出され、東京オリンピック・パラリンピックの延期も決定しました。そして4月には緊急事態宣言が全国に発出され、日常は一変しました。

豊田市では緊急事態宣言が解除された5月頃から、経済活動が順次再開するとともに、学校・こども園・公共施設も段階的に再開しました。そこで求められるようになったのが「新しい生活様式」です。手洗いやマスクの着用、こまめな換気、3密(密閉・密集・密接)の回避、毎日の検温・体調管理、テレワークの推進など、あらゆる場面において感染症対策を行いながら「日常」を取り戻す「withコロナ」の取組が進められました。

世の中のできごと

- 2020
- 3月 ● 新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、東京オリンピック・パラリンピックの延期が決定
 - 7月 ● 日本各地で豪雨災害
 - 8月 ● 棋士・藤井聡太さんが史上最年少で二冠を達成
 - 12月 ● 小惑星探査機「はやぶさ2」が地球に帰還

豊田市のできごと

- 2020
令和2年
- 1月 ● ラグビートップリーグ歴代最多入場者記録を更新
 - 4月 ● 移転した北部給食センターの供用を開始
 - 6月 ● 南部休日救急内科診療所を含む複合施設を開設
 - 7月 ● 豊田東高等学校旧校舎の解体工事を前に「ありがとう東高!お別れ見学会」の開催
 - 12月 ● 豊田地域医療センター診療棟がオープン



南部休日救急内科診療所を含む複合施設を開設 2020(令和2)年



豊田東高等学校旧校舎の解体工事を前に「ありがとう東高!お別れ見学会」の開催 2020(令和2)年



豊田地域医療センター診療棟がオープン 2020(令和2)年

コロナ禍でも
歩みを止めないまちづくり
2020(令和2)年、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がりました。誰も経験したことのない激動の時代。そのような中でも、まちづくりの歩みが止まることは決してありません。希望に満ちた明日に向かって、市民一人一人の力を結集し、今後も豊田市は歩み続けます。

2020

Urban development continued even when faced by the coronavirus pandemic.

The turmoil of the times today are like nothing we have seen before. However, a city can never simply let progress cease as it develops. Toyota City will continue to move forward to a hopeful tomorrow, gathering the power of its citizens.



移転した北部給食センターの供用を開始 2020(令和2)年

新型コロナウイルス感染症に関する記録



医療従事者に感謝を伝える豊田大橋と豊田スタジアムのブルーライトアップ



市役所窓口で飛沫防止用アクリルパネルを設置



ドライブスルー式の新型コロナウイルスPCR検査所を新設



夜空を彩った「WE LOVE とよた」応援打ち上げ花火

支え合いの輪

誰も経験したことのないコロナ禍において、人々の支え合いの輪が広がっています。市内の数多くの企業・団体から、マスクやフェイスシールド、消毒液、感染症患者移送用車両などが寄贈されました。市内の飲食店を応援するイベントやキャンペーンなども実施され、感染予防に努めながら互いに力を合わせて困難な状況を乗り越えています。

また、「医療従事者をはじめ社会生活に不可欠な仕事に就くみなさんに感謝を伝えたい」「市民・事業者のみなさんにエールを送りたい」という思いから、豊田大橋・豊田スタジアムのブルーライトアップや花火の打ち上げを実施。お互いを思い合う心、支え合う行動は、市制70周年を迎えた豊田市がより良い明日へと歩み続けていく大きな力になります。

- 豊田市の主な取組**
- 相談窓口の開設
 - 電話による生活状況などの確認
 - (母子保健推進員、こども園、小・中・特別支援学校) 給食費の無償化
 - 各学校ホームページに学習メニューの掲載
 - 事業者向け助成金申請支援事業
 - 豊田市中小企業等雇用調整補助金
 - 豊田市テレワーク導入支援補助金
 - 市営住宅の提供、家賃徴収の猶予
 - 個人市民税・固定資産税・国民健康保険税などの納税猶予
 - 水道料金の基本料金4か月分を免除
 - 「コロナ克服の今こそ WE LOVE とよた」応援寄附金の募集、「WE LOVE とよた」応援商品券の発行
 - 豊田市新生児特別定額給付金
 - 豊田市臨時特別定額給付金 など

豊田市では2月から随時、太田稔彦市長が記者会見を開き、市が行う対策などについて説明。感染症予防に関する注意喚起、市民生活や事業活動を支えるための対策、学校・こども園・公共施設の対応、市主催のイベントに関する方針などを打ち出しました。また、市民の不安や困りごとの解決に役立てるよう相談窓口の開設や新型コロナウイルスPCR検査所の新設を行いました。市民の安全・安心のために、国や県、医療機関との連携を強化し、感染拡大の防止に取り組みしました。

City Initiatives and the Circle of Support

Toyota City engaged in diverse initiatives to evoke caution in order to prevent the spread of the coronavirus, such as executing emergency measures to support the lives of the local people and business activities, opening consultation desks, and establishing new PCR testing sites. The circle of support expanded to include many local companies and organizations that donated masks, face shields, and antiseptics. Action of support in the spirit of unity is a tremendous power that continued to drive Toyota City toward a better tomorrow as it celebrated its 70th anniversary.



地元生産者の応援につながる「ドライブスルー豊田マルシェ」を開催



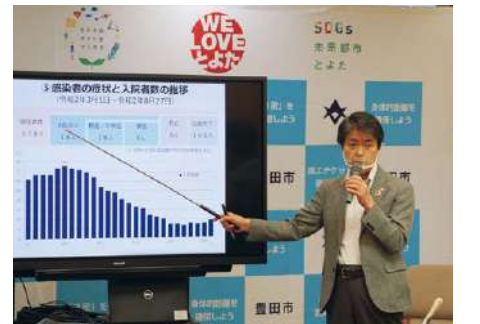
寄贈されたマスクやフェイスシールドなどは福祉・教育施設などで活用



6月から特別定額給付金の申請受付を開始



人数制限など感染症対策を行い、議会を開催



記者会見に臨む太田稔彦市長



世界最高峰のラグビーに感動 ラグビーワールドカップ2019 in 豊田スタジアム

世界中に熱い感動をもたらしたラグビーワールドカップ2019。全国12会場の一つに、豊田スタジアムが選ばれました。招致から開催までの道のり、大会期間中の熱狂、レガシーなどを振り返ります。

ラグビーワールドカップは、1987年に第1回大会を開催して以来、4年に一度行われる国際大会です。夏季オリンピックやサッカーワールドカップと並ぶ世界三大スポーツ大会の一つと言われています。これまでは、ヨーロッパやオセアニア、南アフリカなど、ラグビー伝統国が開催地となってきました。その歴史に新たな風が吹いたのが、ラグビーワールドカップ2019。日本がアジア初の開催地に選ばれました。そして、たくさんの声援を力に変えた日本代表が史上初の8強入りという快挙を成し遂げたのです。

ラグビーワールドカップ2019公式キャッチコピー「4年に一度じゃない。一生に一度だ。」のとおり、市民にとっても、一生に一度の体験となった今大会。世界中から訪れた多くの人とともに、世界最高峰のラグビーが生み出す熱狂や感動を分かち合いました。

The Thrill of the World's Top Rugby at the Rugby World Cup 2019 in Toyota Stadium

The Rugby World Cup 2019 brought the world-wide passion of rugby to Japan. Toyota Stadium was selected as one of the 12 competition venues throughout Japan. This tournament proved its official slogan promising a "one in a lifetime" experience to be true for the people of Toyota as well. Let us look at some of the excitement during the tournament, the legacy, and the active participation of the citizens.



招致から開催までの道のり

多くの人々の尽力により、豊田スタジアムでの開催が決定。ラグビーの魅力や豊田市開催のメリットを広く伝え、ラグビーワールドカップ2019の開催機運を醸成しました。

令和元年	2019	平成30年	2018	平成29年	2017	平成28年	2016	平成27年	2015	平成26年	2014
9月●ラグビーワールドカップ2019の開幕	8月●シテイドレッシングを開始 100日前イベントの開催 ●愛知・豊田ラグビーフェスタ2019の開催 6月●愛知県・豊田市独自ボランティアの募集を開始	10月●1年前イベントの開催 9月●最大のラグビースタラムでギネス世界記録を達成(豊田商工会議所青年部)	●愛知・豊田ラグビーフェスタ2018の開催 6月●リポビタンDチャレンジカップ2018日本代表対ジョージア代表戦の開催	5月●500日前イベントの開催 ●ラグビーワールドカップ2019日本大会公式ボランティアの募集を開始	4月●名古屋・一宮市・豊田市が公認チームキャンプ地に内定	1月●チケット販売を開始	●愛知・豊田ラグビーフェスタ2017の開催 11月●試合日程発表のパブリックビューイングを実施	10月●愛知県と豊田市が連名で開催都市希望申請書を提出	5月●豊田市が開催都市として立候補を表明	1月●ラグビーワールドカップリミテッドらが開催都市立候補地を公式視察	3月●愛知県・豊田市が開催都市に決定
							9月●イングランドで開催されたラグビーワールドカップ2015のパブリックビューイングを実施	6月●リポビタンDチャレンジカップ2016日本代表対スコットランド代表戦の開催	7月●愛知・豊田ラグビーフェスタ2016の開催	12月●1000日前イベントの開催	

RUGBY WORLD CUP 2019

豊田スタジアム 試合結果

9.23(月・祝)



ウェールズ vs ジョージア

43 14



9.28(土)



南アフリカ vs ナミビア

57 3

10.5(土)



日本 vs サモア

38 19



10.12(土)



ニュージーランド vs イタリア

試合中止

※ニュージーランド・イタリア戦は、大型の台風19号の接近により残念ながら中止となりました。チームや観客、大会に関係するすべての人々の安全を最優先に考えた苦渋の決断でした。



スタジアムの興奮と感動を共有
スカイホール豊田では、9月20日の開会式から11月2日の閉会式までの期間のうち10日間、ラグビーワールドカップ2019の公式イベントスペース「ファンゾーン」が開設されました。400インチの大型スクリーンには、豊田スタジアムでの試合をはじめ全国各地で行われた日本戦、準々決勝から決勝までの試合が映し出されました。国籍や応援しているチームなどの違いを超え、観客一体となって盛り上がりました。

さらに、会場内にはラグビー体験コーナー、グルメゾーン、愛知・豊田の魅力発信ゾーンなどが設けられ、国内外の来場者で連日大賑わいでした。



世界中の人々を賑やかに歓迎
国内外から集まるラグビーファンに試合以外の時間も楽しんでもらえるよう、豊田市駅前を中心に市内各所でもてなしイベントを開催。訪れた人たちは豊田市の食や伝統文化・芸能、ものづくりの技などを満喫しました。



Passion and excitement fuel the Once in a lifetime experience.

Toyota City not only hosted Rugby World Cup 2019 matches at the Toyota Stadium but also opened an official Fan zone event space from the opening ceremony on September 20 to the closing ceremony on November 2. Toyota City launched events as well around the city centered upon Toyotashi Station for rugby fans visiting from Japan and overseas to enjoy alongside the tournament. The fall of 2019 filled Toyota City with feverish excitement which will be cherished in the hearts of people as a once in a lifetime memory.



RUGBY
WORLD
CUP
2019

【開催レポート】

豊田市全体が
熱気の渦に

熱気と感動に包まれた、 「一生に一度」の体験

豊田スタジアムでの試合をはじめ、スカイホール豊田でのファンゾーン、世界中のラグビーファンを歓迎するおもてなしイベントが賑やかに開催されました。

大会期間中、豊田市が熱気に包まれ、人々の心に一生に一度の思い出が刻まれました。





RUGBY
WORLD
CUP
2019

姫野和樹選手
インタビュー

もっと強くなりたい 夢の舞台で新たな扉を開く

トヨタ自動車ヴェルブリッツに入団し、キャプテンとしてチームを牽引した姫野和樹選手。ラグビーワールドカップ2019でも力強いプレーで活躍し、悲願の8強入りに貢献しました。前進し続ける姫野選手に、ワールドカップで得たもの、今後の目標などを伺いました。



姫野和樹選手プロフィール
 1994(平成 6)年 愛知県生まれ
 2017(平成29)年 トヨタ自動車ヴェルブリッツ入団／新人賞・ベスト15
 日本代表選出
 2019(令和元)年 ラグビーワールドカップ2019出場
 全5試合先発出場

ーラグビーワールドカップ2019に出場
しいかがでしたか。

出場した全5試合、夢の舞台に立てた喜びを噛みしめながらプレーしました。その一秒一秒が、自分にとってかけがえのない宝物です。



日本代表を歓迎する人々で、豊田市駅前は大賑わい

かったです！豊田市駅前の賑わいは、まさにお祭り騒ぎ。すごい盛り上がりでしたね。日本代表が宿泊したホテル前には大勢の人々が集まって大歓迎してくれて、豊田市はラグビーに熱いまちだと実感しました。

ーラグビーワールドカップ2019を通して、何を得たと感じますか。

「もっと強くなりたい」という向上心です。中学時代からラグビーに熱中してきた僕には「ラグビーを日本になくてはならない存在にしたい」という夢があります。その実現のためには自分自身がもっとも強くならないといけない。次のワールドカップでより良い結果を残さないといけない。そんな気持ちに火が付きました。

また、今大会はラグビーの可能性をひしひしと感じた大会でした。ワynchム、ノースサイドなどのラグビー文化が多くの人々の心を掴んで、それが日本中の盛り上がりにもつながったでしょう。ラグビーが日本においてさらに発展していくことを感じました。



ー今後の目標を教えてください。

2023年のラグビーワールドカップでベスト4に入りたい。そのために、今やるべきことを常に考えて行動し、前に進み続けたいと思います。2021年には海外のハイレベルなリーグに挑戦し、自分の力を伸ばしていきたいです。

ー豊田市のみなさんへ、メッセージをお願いします。

今回のラグビーワールドカップでは、豊田市のラグビー熱をすごく感じました。その熱を冷めさせないためにも、支えてくれるみなさんへの感謝の気持ちを胸に自分を成長させていきます。トヨタ自動車ヴェルブリッツもトップリーグでさらに飛躍できるように、ぜひみなさん応援してください。よろしくお願いします！

The goal is to get even better. Open new doors to a land of dreams.

Mr. Himeno Kazuki joined Toyota Verblitz to lead the Japanese rugby team as its captain. He contributed with his fierce play style at the Rugby World Cup, helping the team into the coveted quarterfinals. Mr. Himeno talks passionately about how each second playing rugby is an indispensable treasure. He strongly feels he needs to get even better. Mr. Himeno now aims to be in the top four at the Rugby World Cup 2023.

Rugby Athlete Himeno Kazuki's Profile

1994 Born in Aichi Prefecture
 2017 Joined Toyota Verblitz and received Top League's accolade for Rookie of the Year and Best XV. Selected as a member of Japan's National Rugby Team.
 2019 Starting player in all five matches at the Rugby World Cup 2019 tournament in Japan

RUGBY WORLD CUP 2019



活動を通して“多様性”の大切さを実感 一生に一度の貴重な経験になりました

また、ボランティアのメンバーは年齢や性別、職業などが様々。いろんな人とコミュニケーションを深めることができ、考え方の幅が広がりました。職場においても“多様性”の大切さを感じている今、ボランティア活動を通して培われた柔軟性や相手を思いやる姿勢を、仕事・日常生活にも生かしたいと考えています。

高校時代、部活でラグビーに熱中していました。ちょうどその頃、豊田市がラグビーワールドカップの会場に決定。「自分が生まれ育ったこのまちに世界のラグビーが来るんだ！」と興奮しました。そんな経験から、大好きなラグビーに貢献したいという一心でボランティアに挑戦しました。

主な活動場所はファンゾーン。会場の案内誘導やゲートでのおもてなしをしました。観客の方々と直に接する機会が多く、ハイタッチをするなどの交流が楽しくて「みんなでラグビーワールドカップを盛り上げている」という一体感に感激しました。



ラグビーワールドカップ2019日本大会
公式ボランティア「TEAM NO-SIDE」参加

是安 佑飛さん

Interview

ボランティアの思い

多くの人と関わり、支え合って、 視野や行動力が大きく広がりました

「二人ではできないことも、みんなで協力すれば達成できる」と再認識し、新しいことにチャレンジする行動力も増しました。今回参加したことで、豊田市には観光スポットや名産品がたくさんあることを知りました。今後は観光分野のボランティアにも挑戦したいです。

以前、ゴルフ関連のボランティアに参加し、多くの人と交流する楽しさを実感していた私。もつと身近な場所でも活動してみたいと意欲が高まって独自ボランティアに応募しました。

一緒に活動する仲間にもボランティアの楽しさを感じてもらえたらという思いから、10人ほどのグループをまとめるボランティアリーダーに挑戦。豊田市駅周辺でチラシ配りや道案内などに励みながら、グループ内での声かけやフォロワーも大切にしました。心に残っているのは、海外の方々に道案内する時に英語が得意なメンバーにお願いするなど、仲間と互いに力を合わせて活動したことです。



愛知県・豊田市独自ボランティア
「TRY FOR ALL スタッフ」参加

白川 直美さん

“One Team”: Supporting the Sensation of the Rugby World Cup 2019

The atmosphere in Toyota City shined with excitement during the Rugby World Cup 2019. The brightest star was all of the volunteers who carried themselves with a mind toward hospitality. Citizens played an active part in every situation aiming to provide the visitors not only enjoying the competition but also the host City hospitality. Many of the people who actually volunteered expressed how they felt the importance of diversity by volunteering. They talked about how it was an invaluable once-in-a-lifetime experience. Their feedback demonstrated the way in which engagement and mutual support of so many people had greatly expanded their view and ability to take action.

RUGBY WORLD CUP 2019



**RUGBY
WORLD
CUP
2019**

市民ボランティアの
活躍

ラグビーワールドカップ2019の 感動を支えた“ONE TEAM”

ラグビーワールドカップ2019開催中、豊田市はきらめく雰囲気にも包まれていました。そこでひとときわ輝いていたのが、ホスピタリティマインドに満ちたボランティアのみなさんです。ラグビーも豊田市も楽しんでほしいという思いを一つにして、あらゆる場面で活躍しました。



愛知県・豊田市独自ボランティア
「TRY FOR ALL スタッフ」

「世界一熱いラグビーを届けよう」という愛知・豊田の地元キャッチフレーズを体現するように、真心込めたおもてなしを実践。豊田市駅前一帯、愛知県内主要乗換駅での案内誘導やイベント運営補助を行い、多くの人に笑顔を届けました。

ラグビーワールドカップ2019日本大会
公式ボランティア「TEAM NO-SIDE」

日本ラグビーが育んだ「ノーサイドの精神」をコンセプトに、活動を通して日本やラグビーの素晴らしさを発信。会場周辺での運営補助、案内誘導、ファンゾーンでの来場者サービスなどを行いました。全国12開催都市で合計約1万3,000人が採用されました。



来場者へ配布物を手渡すスガボラとよたのスタッフ

さらに、市内のスポーツイベントを支える「スポーツボランティアとよた（愛称：スポボラとよた）」を2020（令和2）年8月に設立。ボランティア同士が楽しく交流しながら活動することでスポーツを支える新たな仕組みを築き、ボランティアの一層の拡充を図っています。

また、トヨタ自動車ヴェルブリッツの選手らが、タグラグビーを通じて、ラグビーの面白さを伝える「ヴェルブリッツタグラグビー教室（通称：タグブリッツ）」を開催するなど、市民がスポーツを楽しむ場を創出しました。

ラグビーワールドカップ2019開催を機に、豊田市はスポーツを「する」「楽しむ」「支える」環境を整えました。豊田スタジアムでは大型映像装置の増設やピッチ照明・音響設備の改修などを実施しました。

誰もがイキイキ輝くまちへ

目標に向かって全力を尽くすアスリートの姿は、多くの人々に感動や希望、パワーを与えます。



**RUGBY
WORLD
CUP
2019**

ミライにつながる
レガシー

ラグビーワールドカップ2019が 遺したもの

ラグビーワールドカップ2019の招致・開催は、豊田市に様々なレガシー（遺産）をもたらしました。道路や駅前などのハード整備とともに、ボランティアプログラムなどのソフト事業も活発になり、まちの活性化、魅力向上につながっています。



ヴェルブリッツタグラグビー教室の様子



ラグビーワールドカップ2019開催期間中、多くの人で賑わった芝生広場「とよしば」。現在も、まちなかの憩いの空間として利用されています。

賑わいあふれるまちへ

誰もが訪れたいくなるまちを目指して、豊田市駅周辺を居心地の良い魅力的な空間へと整備。豊田市駅東口ペデストリアンデッキが完成し、歩行者がまちなかを快適に通行できるようになりました。

また、駅前には開放的な芝生広場「とよしば」がオープン。人々の交流の場となっています。

外国人にもやさしいまちへ

ラグビーワールドカップ2019を契機に、誰もが快適に過ごせるまちの整備を推進。案内看板の多言語化、フリーWi-Fiの導入による利便性の向上、英語レストランガイドやピクトグラムステッカーなどの作成を行いました。

また、外国人向け交流プログラムの整備や提供、多言語ガイドボランティアの育成を行いました。今後は、育成したボランティアと協力して、国際的なイベントなどで海外から来訪する外国人に豊田市の魅力を伝えていきます。



上) 豊田北バイパス平戸大橋 下) 4車線化された高橋

移動が便利なまちへ

豊田北バイパス平戸大橋の整備、高橋の4車線化をはじめとした道路整備を行い、渋滞の解消など快適な交通環境を創出しました。

レガシーを生かして、より魅力的なまちづくりを進めていきます

The Rugby World Cup 2019 left a profound mark on Toyota City.

Inviting and hosting the Rugby World cup 2019 has given Toyota City a tremendous legacy (properties). This legacy comes in physical forms from renovations to Toyota Stadium to infrastructure such as arterial roads and bridges as well as abstract forms such as nurturing a desire to volunteer in sports. In the future, Toyota City will use this legacy in furthering more attractive urban development.

RUGBY WORLD CUP 2019

「WE LOVE とよた」条例

2017(平成29)年4月1日施行

私たちのまちは、多様な魅力にあふれたまちです。

それは、豊かな自然とその恵み、栄えある歴史と受け継がれてきた伝統、多彩な文化、世界に誇るものづくりの技術や技能、盛んな芸術やスポーツ、市民の活発な活動、多くの人々を受け入れ認め合う風土、都市部と山村部の共存と交流などです。

私たちは、その魅力に改めて気づき、共に絆と信頼を深めながら、愛情と誇りを持って行動し、魅力にあふれたまちを次の世代に引き継いでいきたいと願っています。そして、人や地域が優しさでつながり、多様な楽しみを尊重し分かち合うことで、誰もが幸せを感じる「わくわくする世界一楽しいふるさと」を目指していきます。

私たちは、こうしたことを「WE LOVE とよた」の取組とし、持続可能なまちを実現するために、このまちに関わる全ての人々と共に推進していくことを決意し、この条例を制定します。

基本理念

第1条 私たちは、次に掲げる事項を「WE LOVE とよた」の取組の基本とし、自らの意思で行動していきます。

- (1) 互いを尊重しながら、とよたの魅力を自由に楽しみます。
- (2) とよたの魅力を周りの人々に伝え、共に楽しみます。
- (3) 互いに協力しながら、とよたをもっと楽しくします。

行動計画

第2条 私たちは、「WE LOVE とよた」の取組を推進していくために、次に掲げる事項について行動計画を作ります。

- (1) とよたの魅力を知り、これを暮らしに取り入れ、発信し、高めていくこと。
- (2) 「WE LOVE とよた」の取組への理解と共感の輪を広げていくこと。



とよたの魅力を多くの人に発信し、まちへの愛情と誇りを高めてもらうため、豊田市では「WE LOVE とよたスペシャルサポーター」と「WE LOVE とよたサポーターズ」を任命しています。

WE LOVE とよたスペシャルサポーター

全国的に有名な人をスペシャルサポーターに任命し、「WE LOVE とよた」の話題性を高めて、豊田市の魅力を全国や世界に発信しています。

WE LOVE とよたサポーターズ

主に市内のイベントなどで、市の魅力や「WE LOVE とよた」の取組をPRしています。

WE LOVE とよたスペシャルサポーターとWE LOVE とよたサポーターズの方々から
豊田市へのメッセージが届きました！

次ページ以降に掲載しています。



みんなで取り組む
「WE LOVE とよた」とは？



「WE LOVE とよた」の始まり

リーマン・ショックをきっかけとした世界同時不況は、市内の経済にも大きな打撃を与えました。こうした地域経済の沈滞ムードを払拭するため、2009(平成21)年3月に始まったのが「とよた元気プロジェクト」です。そして、このプロジェクトで使われた合言葉が「WE LOVE とよた」でした。地域経済を活性化させるために使われた合言葉は、現在、「まちの魅力を市民が再認識し、愛情と誇りを持って、次の世代に引き継いでいく」というさらに広い意味で使用されています。豊田市では、「WE LOVE とよた」をさらに強化していくため、2017(平成29)年に条例を制定しました。

「わくわくする世界一楽しいふるさと」を目指して

「WE LOVE とよた」は、まちづくりの根幹であり、取組の輪を広げていくことが大切です。そのために必要なのは、市民一人一人がまちを「楽しむ」こと。まちを「楽しむ」ことで、まちが好きになり、自分のまちとしての意識と関心が高まります。そして、まちづくりの当事者意識が生まれ、まちへの愛情と誇りが一層醸成されます。「WE LOVE とよた」が目指す先は、「わくわくする世界一楽しいふるさと」を市民みんなの力で築いていくことです。

Origins of WE LOVE TOYOTA

The Toyota Genki Project began in March 2009 to overcome stagnation in the local economy caused by the 2008 financial crisis and raise citizen awareness. The motto used for this project was WE LOVE TOYOTA. Today, these words are used more broadly to reaffirm the love and pride people feel for this amazing city, which we will pass down to the next generation. In 2017, an ordinance was enacted to strengthen WE LOVE TOYOTA in Toyota city.

Aiming to be the World's Most Enjoyable and Exciting City

WE LOVE TOYOTA is the bedrock of urban development in the city, and expanding the range of initiatives if vital. A requirement to accomplish this goal is for every single resident to find enjoyment in the city. The WE LOVE TOYOTA initiatives strive to build the world's most enjoyable and exciting city through the strength of its people.



豊田市制70周年、おめでとうございます！
実はボクが生まれたのは昭和34年、つまり母市から豊田市に改名した年だったと学校で習いました。そんなボクも豊田市も61歳！その先輩にあたる挙母市誕生70周年をお祝い出来るのは、すごく嬉しいことです。小学校の時に地元の教科書「明るい豊田市」で学んだちよっと人型に見えた豊田市は、その市の形も北東に広がり、元気な恐竜のように見えてるのはボクだけでしょうか。
今でも帰れる実家があり、帰れば猿投山や六所山を望み、矢作川の水面を愛でることが出来る豊田市。そんな変わらない故郷の益々の発展を心から願っています。

Congratulations to Toyota City for its 70th anniversary!
I learned at school that in 1959, the year I was born, the name of the City was changed from Koromo City to Toyota City. That means that both Toyota City and I are 61 years old! I am very happy to be able to celebrate the 70th anniversary of the founding of Koromo City, Toyota City's predecessor. When I was in elementary school, I learned from Akarui Toyota City, a textbook on the local area, that the shape of Toyota City is reminiscent of a human. Is it only me who thinks that it looks like a healthy dinosaur with the spread to the northeast?
My childhood home that I am able to return to still remains. When I do return, I am able to take in views of Mt. Sanage and Mt. Rokusho as well as enjoy looking at the surface of the Yahagi River. I sincerely hope for the further development of Toyota City, my hometown that doesn't lose its attractiveness.

アニメプロデューサー

諏訪 道彦 さん

PROFILE

1959(昭和34)年愛知県豊田市生まれ。ytv Nextry専務取締役、アニメ企画プロデューサー。読売テレビ入社後、「名探偵コナン」「シティーハンター」「YAWARA!」「金田一少年の事件簿」「犬夜叉」「ブラック・ジャック」など数多くのアニメをプロデュース。2021(令和3)年は「半妖の夜叉姫」、劇場版「神在月のこども」を担当中



2017年2月1日深夜1時、私は豊田市民になりました。凍えそうなほど寒い夜でしたが、守衛室の方が温かく迎え入れてくださいました。当時、東京で週5、6日生放送の番組を担当していたため、豊田市在住の夫と別居婚という形で新婚生活をスタートさせました。帰る場所があることの幸せを教えてくださいましたのは豊田市でした。
安心して暮らせる街。生活する人の穏やかさ。豊かな自然から感じる歴史。近くに感じる未来への扉。すべてが心地よく調和されているオンリーワンの街であると思います。
夫の転勤により現在は東京で生活していますが、また「ただいま！」と皆様にお会いできる日を楽しみにしております。
市制70周年、おめでとうございます。

タレント

上田 まりえ さん

PROFILE

1986(昭和61)年鳥取県境港市生まれ。2009(平成21)年日本テレビにアナウンサーとして入社。2016(平成28)年1月末に退社し、タレントに転身。現在は、タレント、ラジオパーソナリティ、ナレーター、MC、スポーツキャスター、ライターなど幅広く活動中



豊田市制70周年おめでとうございます！
豊田で生まれ、豊田で育ち、たくさんの青春時代をこの街で過ごしてきた私にとって、豊田市はとても思い出深く、大切なふるさとです。
幼い頃の夏といえば、父と一緒に朝5時から猿投山へカブトムシやクワガタを採集しに出かけるのが定番で、春は矢作川沿いの白浜公園にある動物の遊具で姉とよく遊んだことを覚えています。豊田市駅周辺へ出かければ決まって松丈のコロッケ。母が作ってくれるハウレンソウの炒め物と一緒に夕飯で食べるのが大好きでした。
豊田を離れて感じる豊田の良さ。2015年にWE LOVE とよたスペシャルサポーターに任命いただき、おいでんまつりやイベントへの参加で、改めて豊田の魅力を知ることができました。太田市長と一緒にやった鶏のモノマネは忘れられない思い出です！私の家族、友人、大好きな仲間がたくさんいるこの豊田市が、さらに良い街になるよう、今後益々の発展を願っています。

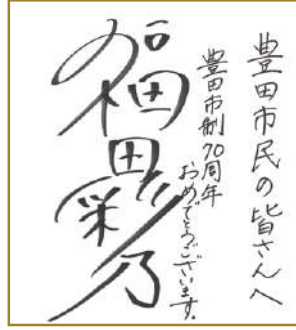
Congratulations to Toyota City for its 70th anniversary!
Born and raised in Toyota, I spent much of my youth in this City. So for me, Toyota City is my hometown that I have many memories of and cherish. If I reflect on summers when I was young, I remember that it was normal to go out together with my father at 5 am to Mt. Sanage to catch rhinoceros beetles and stag beetles. In spring, I often played with my sister on the animal-themed playground equipment at Shirahama Park along the Yahagi River. If we made our way to Toyotashi Station, we would be sure to find croquettes at Matsujo. I really enjoyed eating them together for dinner together with my mother's stir-fried spinach. I became aware of the great things Toyota has to offer when I was away. After I was nominated as a We Love Toyota Special Supporter in 2015, I participated in the Toyota Oiden Festival and other events which really made me come to know the charm of the City. The chicken impersonation I did with Mayor Ota was unforgettable! I hope that Toyota City, the place many of my family members, friends, and colleagues that I love call home, will continue to develop in the future.

タレント

福田 彩乃 さん

PROFILE

1988(昭和63)年愛知県豊田市生まれ。2009(平成21)年デビュー後、現在まで多数の番組に出演し、現在は東京や地元愛知県で番組MC・ナレーション・コメンテーターを務める。2020(令和2)年に一般男性との結婚を発表



市制70周年おめでとうございます。
小さい頃から矢作川でカヌーに親しんできた僕にとって、豊田市は今の自分を育んでくれた「原点」であり「母のような場所」です。高校卒業後はスロバキアに渡り、日々トレーニングに励んでいます。帰省した際には、地元の方々から「頑張ってるね！」といった応援の言葉をかけていただくなど、いつも自分に力を与えてくれる大切なふるさとです。
これからも、ふるさと豊田市からの声援を力に、全てを懸けて競技に取り組んでいきたいと思っています。皆さん、今後とも応援よろしくお願います!!

Congratulations to the City's 70th anniversary!
As I grew up enjoying canoeing in the Yahagi River, I consider Toyota City to be my origin that nurtured me with care. After graduating high school, I moved to Slovakia where I train every day. I still feel at home when I return to the City as people of Toyota continue to cheer me, giving me strength. I will continue to dedicate everything to canoeing with the support of the Toyota City pushing my back. Thank you for your continued support and I hope you will continue to cheer me!

カヌー選手

羽根田 卓也 さん

PROFILE

1987(昭和62)年愛知県豊田市生まれ。朝日丘中学校、杜若高校卒業。ミキハウス所属。2008(平成20)年の北京オリンピックから3大会連続でオリンピックに出場。2016(平成28)年のリオデジャネイロオリンピックでは、カヌースラローム男子カナディアンシングルで銅メダルを獲得





市制施行70周年をおめでとうございます。
トヨタ自動車ヴェルブリッツはこれまで豊田
市と共に歩み歴史を重ねてきました。市民
のみなさまにはいつも温かく応援して頂き、誠
にありがとうございます。

豊田市とはラグビー教室（タグブリッ
ツ）や産官学一体となった豊田スポーツアカデ
ミーなどの活動を通して、健全な青少年の育成
を一緒に推進してきました。また2019年に
行われたラグビーワールドカップの豊田スタジ
アムでの試合は大変盛り上がり、豊田市のおも
てなしを世界に示すことができたと思います。

今後ラグビーで日本一になれるよう精進し
ていくとともに、地域のみなさまに愛される
チームになっていきたいと思っていますので、
引き続き応援よろしく願います。

2019年にWE LOVE とよたスペシャル
サポーターに任命して頂き、これからも豊田市
を全国の大舞台に発信できるように精進いた
します。また、市民向けの野球教室の開催等
を通じ、豊田市のスポーツ推進にも寄与してい
きたいと考えております。最後になりますが、こ
れからも弊社硬式野球部へのご支援・ご声援の
程よろしく願います。

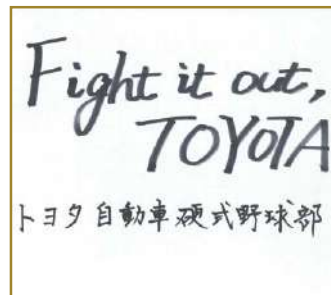
弊社硬式野球部として2016年に都市対
抗野球大会を制し、「豊田おいでんまつり」にて
市民の皆様へ優勝報告ならびにパレードへの参
加をさせて頂いた事が今でも野球部一同良い思
い出として残っております。

Warmest congratulations on the 70th anniversary of Toyota City.
As our company's baseball club, we won the 2016 Intercity Baseball
Tournament. We later reported the victory to the citizens of Toyota City
during the Toyota Oiden Festival and participated in the festival parade.
This remains a great memory for all of us in the baseball club. Last year, our
team was appointed as a We Love Toyota Special Supporter. Therefore, we
will continue to devote ourselves to allowing Toyota City to be known at
major venues nationwide. In addition, we would like to contribute to
promoting sports in Toyota City by holding baseball classes for citizens. In
closing, our baseball club looks forward to your continued support and
encouragement.

トヨタ自動車 硬式野球部

PROFILE

1947(昭和22)年創部。1963(昭和38)年に豊田市代表として都市対抗野球大会初出場、1989(平成元)年の初勝利以降、全国強豪チームへと成長。都市対抗野球大会優勝1回。日本選手権大会優勝5回

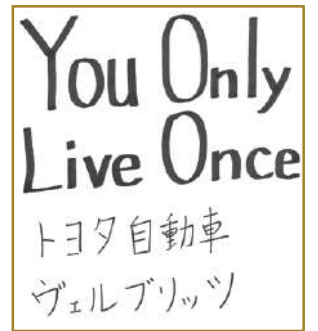


Congratulations to Toyota City for its 70th anniversary.
The Toyota Rugby Team Verblitz has a long history together with Toyota City. The team is always warmly supported by the citizens of the City, and for this I would like to express my deepest thanks.
Together with Toyota City, we have been promoting the development of healthy young people through activities at the rugby academy, tag rugby school (Tag Blitz), etc. Also, the match at Toyota Stadium during the 2019 Rugby World Cup was very exciting, and I think we were able to show the world the hospitality that Toyota City has to offer.
We will continue to devote ourselves to becoming the best rugby team in Japan and strive to become a team that is loved by everyone in the local community. Thank you for your continued support.

トヨタ自動車 ヴェルブリッツ

PROFILE

1941(昭和16)年創部。ジャパンラグビートップリーグに加盟するラグビーチーム。練習グラウンドは保見町にあるトヨタスポーツセンター。日本選手権優勝3回

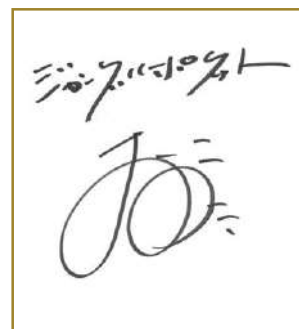


Congratulations on the 70th anniversary of Toyota City!
Toyota City is my hometown that I cherish, filled with memories of my youth where I lived until I was 22 years old when I went off to Tokyo to become a comedian. Especially at the Koromo Festival, which I have passionately participated in since I was a child, I learned various things such as how to play a musical instrument to the best of my ability, the joy of cooperating with people and preparing for success, and how elders want their tea. Although I am not currently living in Toyota as I have been living in Tokyo for many years, memories with my friends and seniors while living in Toyota City still make me feel energetic.
As a We Love Toyota Special Supporter, I would like to continue to promote Toyota City, the City that made me who I am, so that I can give back as much as possible!! I will support the further development of Toyota City!

お笑い芸人 太田 博久さん (ジャングルポケット)

PROFILE

1983(昭和58)年愛知県豊田市生まれ。2006(平成18)年にお笑いトリオ「ジャングルポケット」を結成し、リーダーを務める。高い運動能力を発揮し、全日本マスターズレスリング選手権大会で日本代表に選出されるなど幅広く活躍中



Congratulations on the 70th anniversary of Toyota City!
Born and raised in Toyota City, I have many memories of my hometown. The Toyota Oiden Festival was a particularly memorable part of growing up in Toyota City. Back in the day, I was very shy, so I wasn't able to directly participate and dance, but I looked forward to seeing it every year. I was never able to get the festival's song "Oiden Mirin O-do-roma-i" out of my head, and I still hear this song in my dreams. I love it that much. Although I am not currently living in Toyota as I have been living in Tokyo for many years, my childhood memories make me feel happy. When I sometimes return to my hometown, I get "recharged" which encourages me to again work hard in Tokyo.
For me, my hometown of Toyota City is a really important place. As a We Love Toyota Special Supporter, I want to continue to promote Toyota City.

お笑い芸人 よしこさん (ガンバレルーヤ)

PROFILE

1990(平成2)年愛知県豊田市生まれ。藤岡中学校卒業。2012(平成24)年にお笑いコンビ「ガンバレルーヤ」のボケ担当としてデビュー。顔モノマネで人気を博し、バラエティ番組で活躍するほか、ドラマや映画にも出演





シンガーソングライター
TUT-1026 さん

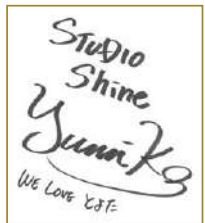


PROFILE

豊田市出身のシンガーソングライター。2008(平成20)年にアルバム『エブリバディー』をリリースしてデビュー。現在も地元豊田市から全国に向けてメッセージを発信中

イエイイエイ！豊田市制施行70周年おめでとうございます！都市部と自然のバランスの取れた優れた街、ここ豊田市に生まれ育ったことを非常に嬉しく思うと同時に大変誇りに思ってます。成長を続ける素晴らしい街「豊田市」を市民の皆様と共に全国に知って頂けるようこれからも活動していこうと思います。WE LOVE とよた!!

Yaaay! Congratulations to Toyota City for its 70th anniversary! Toyota is a city with good balance of urban and natural charms. I feel gifted that I grew up in the City and pride myself for being so. I hope to let everyone know more about the great city of Toyota across Japan with all the citizens. WE LOVE Toyota!!



ダンサー
YUMIKO さん



PROFILE

STUDIO Shine代表。市内でダンススクールを運営。自身もインストラクターとして活動するかたわらモデルとしても活動中。趣味は愛犬と一緒に旅行すること

市制70周年おめでとうございます。豊田市でキッズダンススクールを始めて約15年。地元イベントに毎年出演させていただき、地元の人々との交流を深めてきました。駅前再開発も進み「あそべるとよた」をスローガンに街全体で盛り上げている豊田市をとても誇りに思います。ますます発展できるようサポーターズとして頑張っていきたいです。

Congratulations to Toyota City for its 70th anniversary. It has been almost 15 years since starting a kid's dance school in Toyota City. I have been fortunate to be invited to various local events every year and interact with the people of Toyota. I cannot stop to praise the efforts of the City to vitalize the entire city through the Asoberu Toyota Project which capitalize the re-development of area around the station. I will do my best as a supporter to contribute to the further development of the City.



マジシャン
ミステリック
SHINYA さん

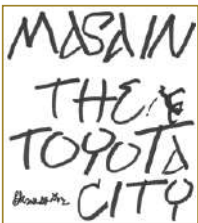


PROFILE

テーブルマジックからインパクトのあるステージマジックや人体切断など大掛かりなイリュージョンマジックまで幅広く行う。東海地区を拠点に日本全国で活動中

市制施行70周年おめでとうございます。僕は東海地区を拠点にマジシャンとして日本全国で活動しております。僕はこの豊田市で生まれ、育ちました。地元の風景が大好きで遠征から帰って見慣れた景色を見るたびにいつも安心します。そんな大好きな地元を盛り上げていけるように何事にも全力で取り組んでいきたいと思います。

Congratulations to Toyota City for its 70th anniversary Based in the Tokai Region, I am active all over Japan as a magician. Born and raised in Toyota City, I love the local scenery and always have peace of mind every time I return from a tour and see the local scenery that is familiar to me. I would like to do my best to invigorate the hometown that I love.



ダンサー
松田政大 さん
(MASA)



PROFILE

2005(平成17)年より豊田市内にあるDCO DANCE STUDIOの代表。ダンス歴20年以上、指導歴15年以上という実績のもと、ダンサー、振付師、インストラクターとして活動中

市制施行70周年おめでとうございます。豊田市は、国際的な企業が多いせいか他の地域や海外から来た方々に対しても受け入れる姿勢があり、包容力のある街だと思います。工業都市のイメージが強いと思いますが、自然豊かで歴史も深い、人も温かく私の大好きなこの豊田市を、国内外から来られた方々にも好きになってもらえる様、尽力いたします。

Congratulations to Toyota City for its 70th anniversary. I think Toyota City is an inclusive city with a willingness to accept people from other regions and overseas, most likely because there are many international companies located in the City. Although I feel that it has a strong image of being an industrial city, I will do my best to make my beloved Toyota City, which is rich in nature, has a long history, and is home to warmhearted people, to make it popular among people from Japan and abroad.



豊田ご当地アイドル
Star☆T



PROFILE

2011(平成23)年ステージデビュー。以後豊田市を中心に東海地区～全国、海外でライブイベント、テレビ・ラジオに出演。全メンバー豊田市在住。詳しくは「豊田」「アイドル」で検索

市制施行70周年おめでとうございます。私たちは豊田ご当地アイドルとして、豊田の“元気”と“魅力”を全国に発信しています。私たちも2021年にデビュー10周年を迎えます。これまでの市民のみなさんの応援に感謝します。これからも豊田市とともに20年30年と活動を続けて、みなさんを“笑顔”にしていきたいと思います！

Congratulations to Toyota City for its 70th anniversary. As local idols from Toyota, we are letting the entire country know about Toyota's "vitality" and "charm." As a group, we will also celebrate the 10th anniversary of our debut in 2021. We thank all the citizens of Toyota City for all the support they have given us so far and would like to continue working with Toyota City for 20 to 30 more years to put smiles on everyone's faces!



タレント
里園侑希 さん



PROFILE

豊田市出身のタレント。豊田ご当地アイドルStar☆T初代リーダー。“I LOVE 豊田”の精神で、豊田市を中心に司会・ラジオパーソナリティ・モデル等、マルチに活動。交通安全啓発事業も展開中

市制施行70周年おめでとうございます。私は地元豊田市で司会・ラジオパーソナリティとして活動しています。やすらぎと感動を与えてくれる美しい自然、世界に誇れるものづくり、笑顔で溢れる地元の人々、そんな豊田市が大好きです。これからも豊田市の魅力を市民の皆様と共有しながら全世界へと発信していきたいと思います。今後とも宜しくお願いします。

Congratulations to Toyota City for its 70th anniversary. I am working as a presenter and radio personality in my hometown of Toyota City. I love Toyota, a city with beautiful nature that offers both tranquility and excitement, a manufacturing industry that citizens can be proud of even on an international level, and locals who always have smiles on their faces. My intention is to continue to share the charm of Toyota City with its citizens and let the world know about the City's charm as well. Thank you for your continued support.



シンガーソングライター
うたれん



PROFILE

「寄り添える音楽をあなたに」をキャッチコピーに活動するシンガーソングライター。豊田市内の観光PRソングや、ご当地アイドルへの楽曲提供など、多岐にわたり活動中

豊田市制施行70周年おめでとうございます。豊田市内8観光協会合同PRソングを歌っています、うたれんです。市民の皆様がいつでも笑顔で、自分の思う活動が出来る豊田市をこれからも応援させていただきます。学生の頃より過ごした豊田市が楽しい街になれるよう、微力ではありますが、これからも音楽でサポートさせていただきます。

Congratulations to Toyota City for its 70th anniversary. My name is Utaren, the singer of the promotional song for Toyota City Eight Tourism Associations Union. I will continue to support Toyota City, a place where citizens can always smile and be themselves. Having spent time in Toyoda City as a student, I will continue to support the City through my music, even in a limited capacity, to make it an enjoyable town.



劇団
笑劇派



PROFILE

1998(平成10)年9月に旗揚げし、今年で23年目を迎える。2017(平成29)年に劇団を法人化し、全国へ出張公演を展開。平戸橋町に専用劇場があり、「平戸橋ばしっとライブ」を開催中

豊田市制70周年心よりお祝い申し上げます。生の舞台から笑いと感動をお届けします！をモットーに、多くの学校や地域自治体にお招きいただき、旗揚げ23年、市民の皆様が私たちを育ててくれました。豊田市をもっと元気に！もっと笑いあふれるまちにできるよう、座員一同力を合わせて頑張っていきたいと思います。ご声援宜しくお願いいたします。

We would like to sincerely congratulate Toyota City for its 70th anniversary. With the motto "We deliver laughter and excitement from a live stage!" our theater group has been invited to many schools and local communities. The citizens of Toyota City have nurtured us since our group was founded 22 years ago. Let's make Toyota a more lively city! All the members of our theater group would like to do our best to make Toyota City a place where people can laugh more. Thank you for your support.

WE LOVE とよたフェスタ

市民主体でつくり上げるイベント「WE LOVE とよたフェスタ」。豊田市の魅力を再発見し、豊田市に関わる人と人が絆を強めるきっかけになっています。10のカテゴリーに分かれて、ブース出展や活動発表、ワークショップ、ステージプログラムなどを賑やかに開催。参加者それぞれの「I LOVE」が集まり、「WE LOVE とよた」のムーブメントが大きく広がっています。



第1回

2018(平成30)年2月25日開催
来場者数／約6,000人
出展団体／133団体

第2回

2019(平成31)年3月17日開催
来場者数／約9,000人
出展団体／120団体

第3回

2020(令和2)年3月8日に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため残念ながら中止に。代わりにパンフレットを制作し、出展予定団体の活動内容などを紹介しました。



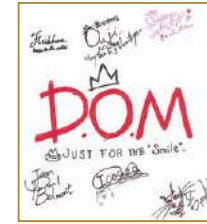
WE LOVE とよたフェスタを構成する10のカテゴリー

- I LOVE 子育て
- I LOVE 若者
- I LOVE ものづくり
- I LOVE 山と川
- I LOVE 農業
- I LOVE スポーツ・健康
- I LOVE アート
- I LOVE いなかとまち
- I LOVE 企業
- I LOVE ステージ

WE LOVE TOYOTA FESTA

WE LOVE TOYOTA FESTA is an event launched by city residents. It acts as an opportunity for people to rediscover the mystique and strengthen bonds between the people of Toyota City. The lively festival divides activities into ten different categories from exhibit booths and activity presentations to workshops and stage performances. Everyone participating brings the "I LOVE" to an event that generates an even larger "WE LOVE" movement.

サポーターズからのメッセージ / Dear Toyota City /



アミューズメントチーム
D.O.M



PROFILE

2010(平成22)年に結成した、ふれあい型マイケルジャクソンアミューズメントチーム。「Just for the Smile -ただそこにある笑顔のために-」を理念に掲げるエンタメ集団

市制70周年おめでとうございます。生まれ育った街の記念すべき時に、サポーターズとしてここにいられることを大変幸せに思います。僕たちみたいな小さな光にも、注目して挑戦させてくれるこの豊田市は、最高にイカした場所です。これからも、小さな笑顔を取りこぼさないパフォーマーとして、貢献していきます。

Congratulations on the 70th anniversary of Toyota City. We are very happy to be here as supporters at a memorable time in the City where we were born and raised. Toyota City is really the coolest place as it gives up and coming performers like us a chance. We will continue to contribute to the City as performers who will appreciate even the slightest level of satisfaction displayed by listeners.



ラジオパーソナリティ
甲田陽子 さん



PROFILE

豊田市在住の主婦パーソナリティとして活躍。昼の情報番組「ひる♡らぶ」火曜日と、日曜日「THEラプソディ演芸『楽市・落語』」のアシスタント担当。ラジオから笑いをお届け中!

豊田市70歳おめでとうございます! 70年という時間の流れの中では、ほんの僅かな時間になると思いますが、声や音楽を通して多くの人とのかかりを感じています。これから先80年、100年と、時を重ねた豊田市が、今まで以上に、たくさんの人の笑顔と笑い声と音楽に溢れた場所になっていますように! 私たちも未来に向かって声をお届けしていきます♪

Congratulations to Toyota City for turning 70! Although we think of our years active as being a short time in comparison to a period of 70 years, we feel a connection with many people through voice and music. We hope that Toyota City will become a place full of smiling people, laughter, and music for the next 80 and even 100 years! We will also make our voices heard for the future ♪

WE LOVE とよた TOPICS

豊田市の魅力を様々な形で発信しています。

WE LOVE とよたアワード

とよたのまちを楽しんでいる、楽しくしようとする活動や取組など、「WE LOVEとよた」の取組をしている人々を広く募集し、「WE LOVE とよたフェスタ」で表彰を行っています。応募のあった取組は、とよたのりのりチャンネルに掲載しています。



とよたのりのりチャンネル

「とよたを楽しむ」ことを目的に開設された特設サイトです。豊田市を楽しむアイデア、イベント情報、写真のシェアなどを行い、豊田市の魅力を共有する場になっています。



WE LOVEとよたマルシェ

豊田市内で生産・販売している和洋菓子、お茶、はちみつなど“美味しい豊田”を紹介するサイトです。各商品のこだわりや店舗情報、生産者・販売者の思いを伝えています。





WE LOVE
**豊田地域
医療センター**
豊田市を医療の面から健康で幸せなまちにしていきたいです。
大杉泰弘さん



WE LOVE
桃
選果場でお安く買える桃が最高においしいです。
藤井亮児さん



WE LOVE
西山公園
緑が一杯！
加根魯澄夫さん



WE LOVE
豊田スタジアムの公園
夏は思いっきり水遊びができる！
山本まどかさん
喜介くん



70組の
「わたしの好きなとよた」
豊田市在住・在勤・在学の70組に、
とよたの好きなところを聞きました。



WE LOVE
地元の友達
40年以上住んでいる中で、地元の友達とのつながりが大切だから。
千賀年紘さん



WE LOVE
中央公園
いつも公園の遊具で楽しんでいます！
石井梨紗ちゃん



WE LOVE
梨
娘が大好きです。猿投の梨を食べるのが楽しみです。
牛津梨紗さん
芙々季ちゃん



WE LOVE
名古屋グランパス
子どものサッカーに付き合ううちにグランパスLOVE！大ファンです。
伊藤輝幸さん



WE LOVE
下山わくわくファーム
下山に來ればやぎがいるよ。
祖父江聡明さん



WE LOVE
ラグビー
ワールドカップ最高のゲームでした。良いボランティアができました。
末廣幸二さん



WE LOVE
トヨロック
無料なのはすごすぎる！自慢です！
学校
先生が好き。友達たくさん。
千賀加奈子さん
茉凜ちゃん



WE LOVE
いとカフェ
オリジナルクラフトコーラを飲みに来てください。
伊藤文彰さん



WE LOVE
**山河に囲まれた
美しいまち**
交通アクセスを充実させ、日本一の住み良いまちづくりが行われていると感じます。
都築孝良さん



WE LOVE
白浜公園
娘や愛犬と散歩に利用しています。自然いっぱい、風も気持ちいいです！
伊藤真貴さん
宇美ちゃん



WE LOVE
自然(香嵐渓)
一年中、自然が楽しめるところが大好きです。
中田みなみさん
奏くん



WE LOVE
挙母祭り
山車を曳き廻した後の感動がやめられません！
青木輝文さん



WE LOVE
自動車
お父さんが自動車をつくっています！！
市川大智くん



WE LOVE
RADIO
豊田のラジオ局「エフエムとよた」は面白い番組ばかり！ぜひ聴いてください。
藤井良紀さん



WE LOVE
五平もち
下山の五平もちがおいしくて大好き！
中倉絵莉さん
凜ちゃん



WE LOVE
豊かな自然
気分転換として西山公園でよく散歩しています。
塚本浩子さん



WE LOVE
足助の竹
足助は古くから竹の産地でした。種類も多くとても質の良い竹が育ちます。
梶達也さん



WE LOVE
豊田市消防団
親子で歌って踊って、防火・防災啓発活動ができる消防団が好き！
加藤聖加さん



WE LOVE
EAT
なし・もも・お米など、豊田市産のものを給食に使ってくださりありがとうございます。
宇井千春さん



WE LOVE
交通公園
(豊田市交通安全学習センター)
SLやゴーカート、いろいろな自転車に乗ってたくさん遊べる大好きな場所です。
西山有美さん
航平くん



WE LOVE
Fujioka
藤岡地区は空気がおいしいです！
郡山真喜子さん



WE LOVE
**高月院と
松平東照宮**
松平家発祥の地を訪ね、寺院参詣と美しい花の観賞を楽しんでいます。
中村千明さん



WE LOVE
**佐切小学校の
うさぎ**
佐切小学校で飼っているうさぎがかわいい！！
市川明くん



WE LOVE
枝下用水
これからも枝下用水130年の歴史を掘り起こしていきます！
達志保さん



WE LOVE
とよた里山
日本古来の古き良きまち、緑あふれる田園風景の中で仕事をしていると心洗われます。
田中都恵さん



WE LOVE
豊田大橋
未来都市にきた感じ。スタイリッシュで散歩にも最適です。
太田喜久夫さん



WE LOVE
ライフ
環境が良く住みやすい豊田の生活が大好き！
神戸哲さん



WE LOVE
フルーツ
都市と自然が融合した豊田市には、季節の恵みがたくさんあります。
藤田豊さん
蓮太郎くん



WE LOVE
豊南
自治区ごとに高齢者クラブが組織され、地域の核として役割を果たしています。
稲垣令一さん



WE LOVE
自然
豊田市にはきれいな公園がたくさんあります。
山田麻衣子さん
葉鳳ちゃん



WE LOVE
あいあい
(とよた子育て総合支援センター)
木のおもちゃがたくさんあって
楽しいです。
武田彩乃さん
隆玄くん



WE LOVE
豊田スタジアム
スポーツ観戦やライブ等各
種イベントが行われる豊ス
タが大好き！
小笠原悠さん



WE LOVE
Toyota
自然が豊かで、地域の皆様
が温かいToyotaが大好きで
す。
川上竜一郎さん



WE LOVE
総合診療
子どもからお年寄り、病院か
ら在宅医療まで、豊田市の
医療を支えます！
近藤敬太さん



WE LOVE
**子育てに
優しいまち**
豊田市は公園や子育てに関
するサポートが充実してい
ます。
内山広子さん



WE LOVE
自然
猿投町や福受町で採れる
フルーツがおいしい！
村松朋樹さん
かおりさん



WE LOVE
松嶋会
(荒井町高齢者クラブ)
今の私があるのは、この松嶋
会のおかげ。松嶋会に入会し、
地域貢献ができたと思います。
田中桂子 さん



WE LOVE
名古屋グランパス
ホーム試合は毎回スタジア
ムで応援してます！！
上田梨奈さん



WE LOVE
anam
人や地球にやさしいお買い
物ができる！
稲熊なつみさん



WE LOVE
鞍ヶ池公園
春夏秋冬、いつも子どもたち
と遊びにいきます。
自然最高！！
上山莉央さん



WE LOVE
勘八・平戸橋
子どもたちを心豊かに育て
てくれた場所です。
花村善照 さん



WE LOVE
足助のまちなみ
足助の昔ながらの細道や自然
たっぷりの雰囲気が好きで
す！
砂川由佳莉さん



WE LOVE
みどりがいっぱい
子ども達とピクニックをよく
しています。
柴田磨奈さん
優花ちゃん



WE LOVE
**Toyota Street
Market**
多くの人が集まる、賑やかな
イベントが大好き。
平翔次さん



WE LOVE
鞍ヶ池
子どもが遊べるところが
たくさん！
倉地沙代子さん
恵麻ちゃん



WE LOVE
SENTAN
社会に役立つ新しいものを
つくるために日々活動してい
ます。
戸鹿島裕也さん



WE LOVE
おいでん花火
花火をつまみに
ビールサイコー！！
中村由美さん



WE LOVE
豊田のお米
農家の皆さん、いつもおいし
いお米をありがとう！
不破菜津子さん



WE LOVE
ふじの回廊
ふじの花と香りに包まれなが
ら、多彩なイベントを楽しめる
ので毎年見に行っています！！
久太才讓さん



WE LOVE
香嵐溪
新緑や紅葉などの綺麗な景
色が見られるので大好きで
す！
加納嘉乃さん



WE LOVE
TIA
(豊田市国際交流協会)
日本人も外国人もみんなで
つくる、あたたかい街・豊田。
豊田彬子さん



WE LOVE
豊田市民の誓い
緑や山河が多く、豊かな文
化があり、あたたかい住みよ
いまちが最高。
村田美智子 さん



WE LOVE
香嵐溪
いつもの散歩ルートです。空
気がおいしくて、四季折々の
魅力があります。
齋藤卓也さん



WE LOVE
さんそん
豊田市の自然が大好き。
岩瀬浩司さん



WE LOVE
休日
飲食店などが集まっていて、
おいしいものがたくさん！
餅原正宗さん



WE LOVE
やすらぎの里 古瀬間
御嶽神社の山頂から見渡す
景色、満開に咲くつつじは、
まさにやすらぎの里。
久米光春 さん



WE LOVE
桜城址公園
城址や桜の木がある、とよた
のまちなかの憩いの場。
マーケットもあります。
中井久美さん



WE LOVE
地域文化広場
子どもと室内アスレチックで
遊んでいます。
外山恵理子さん
翔大くん



WE LOVE
住みやすい街
都会的な所と自然が balan
スよくあり、子育て支援も充
実しています。
岡田智貴さん



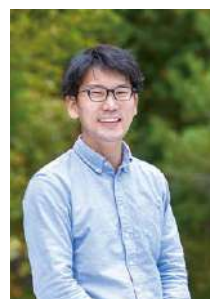
WE LOVE
鞍ヶ池公園
自然いっぱい一日中遊べ
ます。
平澤佑子さん
晴斗くん



WE LOVE
鞍ヶ池
動物園などいろいろなもの
があるところがお気に入り！
市川等作 さん



WE LOVE
やまのぶ
高校時代、学校帰りによく行
きました。
栗津雅耶さん



WE LOVE
どんぐりの湯
露天風呂でゆったりとした
時間を過ごしています。いつ
もありがとう！
佐野琢也さん



WE LOVE
ちょうどいい
車でも、電車でも、徒歩でも、
住むにも、仕事にも、子育て
にもちょうどいいところ！
市川暢啓さん



WE LOVE
四季桜
見るのが楽しい！
鵜飼淳子さん



WE LOVE
猿投神社
毎年、猿投神社でおいしい
はちみつを採取しています！
酒井茉由さん

SDGs未来都市とよた

SDGsとは、国連で採択された持続可能な開発目標のことで、貧困や差別の撲滅、気候変動対策など、世界中の人々が一丸となって達成すべき17の目標が定められています。

豊田市は、「エネルギー」「モビリティ」「ウェルネス」の3分野に重点的に取り組んでいく提案が評価され、他の28自治体とともに全国に先駆け、内閣府から「SDGs未来都市」に選定されました。

豊田市では、SDGsに関する普及啓発活動を行うとともに、企業や団体などと連携して地域課題の解決を図ることで、持続可能なまちづくりを実現する「SDGs未来都市とよた」を目指します。



SDGs 未来都市とよたを実現する 2 大プラットフォーム

ものづくりのまち豊田市は、市域の約7割を森林が占める自然豊かなまちでもあります。豊田市では、こうした都市と山村の地域資源を最大限生かしていくための2大プラットフォームを構築し、「SDGs未来都市とよた」に向けた取組を進めています。

〈都市〉

豊田市つながる社会実証推進協議会

市民、企業、金融機関、大学、行政をつなぎ、新たな技術や社会システムの実証・実装を推進するプラットフォーム。資源・エネルギーの地産地消、超高齢化社会への対応、交通安全の推進など地域課題の解決に向けて、様々な取組を進めています。



〈山村〉

おいでん・さんそんセンター

都市と山村の交流をコーディネートし、人と人、地域と企業・団体をつなぐプラットフォーム。都市部の企業と山村地域のマッチング、山村地域への移住支援などを行い、多彩なライフスタイルやビジネス、地域の新たな魅力創出を支えています。



都市と山村で進む「ミライへの挑戦」

豊田市では、2大プラットフォームを起点に様々な取組が行われています。

中でも、都市における「モビリティのミライ」「ものづくりのミライ」に向けた挑戦、山村における「地域づくりのミライ」「いなか暮らしのミライ」に向けた挑戦は、全国的にも珍しい豊田市ならではの取組です。

「ミライのフツ」の実現に向けたアクションの事例をご紹介します。

- P.59 **Action 1** モビリティのミライ
- P.61 **Action 2** ものづくりのミライ
- P.63 **Action 3** 地域づくりのミライ
- P.65 **Action 4** いなか暮らしのミライ

Toyota City: A City of Continuous Progress

In 2009, the Japanese government selected Toyota City as Environmental Model City. Environmental Model Cities conduct several experimental projects aiming to realize a low-carbon society. Toyota City established the Plan "Hybrid City Toyota" focusing on five pillars: Traffic, Industry, Forrest, Urban Center and Living, aiming to become an advanced environmental city where people, nature, and technology are in constant harmony. Due to its advanced measures and projects, was also selected as SDGs Future City in 2018 as a leading municipality in tackling the SDGs. As we take on this new challenge, Toyota City continues to strive toward creating the "Advanced City Toyota" where everyone can enjoy their lives based on the slogan of "The Standards of Tomorrow, Today".



ミライへの
挑戦

「ミライのフツ」とは

持続可能な社会に近づいているであろう、少し先の未来。そこで当たり前になっているモノ・コトを「ミライのフツ」と捉え、その実現に向けて豊田市は先進的な取組を推進しています。

2013(平成25)年～ ミライのフツを目指そう



「ミライのフツを目指そう」をスローガンとして、「ハイブリッドシティ・とよたプラン」をベースに交通・産業・森林・都心・民生の5分野を中心に未来志向のプロジェクトを推進しました。

2018(平成30)年～ ミライのフツをつくろう



2018(平成30)年にSDGs未来都市に選定されたことを機に、スローガンも「目指そう」から「つくろう」へとステップアップ。構想するだけでなく、実際にアクションしていこうという意志が込められています。市民、企業・団体、行政がつながり合って、SDGs達成に向けて行動を起こしています。

豊田市は2009(平成21)年、低炭素社会の実現を目指す「環境モデル都市」として国から選定されました。以来、「ハイブリッドシティ・とよたプラン」のもと、「交通」「産業」「森林」「都心」「民生」の5分野を軸に多様な取組を進め、人と環境と技術が融合する環境先進都市を目指してきました。

そして、2018(平成30)年、SDGsに先導的に取り組む自治体として「SDGs未来都市」にも選定され、新たな一歩を踏み出しています。豊田市は「ミライのフツをつくろう」を合言葉に、誰もが心豊かに生きられる「SDGs未来都市とよた」の実現に向けてチャレンジを重ねています。

ミライのフツをつくろう



新たなモビリティをつくる活気に満ちた、株式会社SkyDriveのみなさん

豊田市の環境や人々の応援が、空飛ぶクルマの開発を加速させる

「豊田市を空飛ぶクルマの開発拠点にしているのは、新たなものづくりを後押しする恵まれた土壌があるからです。自動車、航空機、宇宙関連の企業が多い東海エリアには、各分野のエンジニアが豊富にいます。さらに、太田市長や豊田市の方々が5年以上前から応援してくださり、安全に飛行試験ができる開発拠点も提供してくれました。環境が整ったことで開発が加速し、有人飛行試験が成功したと心から感謝しています」と福澤さん。豊田市駅近くにある「ものづくり創造拠点SENTAN」も活用し、ミーティングや試作・試験なども活発に行ってきたそうです。

モビリティのミライ

Action 1

株式会社SkyDrive

ミライへの
挑戦



空飛ぶクルマの開発・実用化に挑む、株式会社SkyDrive代表・福澤知浩さん



有人機SD-03モデルは、縦横約4メートル、高さ約2メートル、重量は操縦者を含めて約400キログラム。電動モーターで計8個のローターを回転させ、駆動力を生み出しています。

空を日常的に飛ぶ時代は、すぐそこまで来ている

2018（平成30）年、経済産業省と国土交通省が「空の移動革命に向けた官民協議会」を設立し、5年先、10年先のロードマップを策定。2019（令和元）年には「空飛ぶクルマ2023年事業化」が内閣府の成長戦略にも盛り込まれ、国内の新たな産業分野として期待されています。空飛ぶクルマがもたらすものは、より快適で安心なミライです。都市部における渋滞の緩和や離島・山間部での新たな移動手段の確保につながるほか、救急医療や災害対応への活用も想定されています。「私たちSkyDriveが目指すのは『空が日常的に使えるミライ』です。バックグラウンドが異なる約50人のメンバーが『安心・安全・快適なエアモビリティをつくりたい』という目標を共有し、時にはぶつかり合いながらも対話を重ねて開発を前進させてきました。クルマのまち・とよたから、空飛ぶクルマを世界に届けることができるように、今後も地域に密着しながら開発・実用化を進めていきます」。福澤さんは有人飛行試験を経て決意を新たにし、空飛ぶクルマが身近な乗り物となるミライを見据えています。

空飛ぶクルマが拓く、「移動」の新時代

世界中の空に飛び立つ、モビリティ革命が始動

緑深い足助地区。その山中にある豊田テストフィールドにて2020（令和2）年8月、「空飛ぶクルマ」の有人飛行試験が世界初公開されました。空飛ぶクルマとは、電力で動き、完全自律の自動操縦や垂直離着陸を特徴とする新しいモビリティです。自動車や航空機以来、およそ100年ぶりのモビリティ革命といわれ、世界各国で開発が進められています。日本におけるリーディングカンパニーは、株式会社SkyDrive。有志団体CARTIVATORからスタートした空飛ぶクルマの開発・実用化プロジェクトに取り組んでいます。

CARTIVATOR共同代表・株式会社SkyDrive代表の福澤知浩さんは「5分の1サイズの機体から開発・飛行試験を積み重ねて7年目、2020（令和2）年から有人デモフライトを何百回と行い、安全に安定して飛べるところまでたどり着きました。『革新的なモビリティを、自分たちの手でつくりたい』という思いが、私たちの原動力です」と力強く語ります。



2020（令和2）年8月の有人飛行試験では、有人機SD-03モデルが計4分間の飛行を2回実施。コンピュータ制御のアシストにより、高度約2メートルを安定して保ち続け、道路を走行するように滑らかに飛行しました。

TOPIC

福澤さんは「WE LOVE とよた スペシャルサポーター」としても活躍いただいています。



A new generation of mobility opens avenues to flying vehicles.

The use of flying vehicles hopes to alleviate traffic in urban areas, secure a new transportation method for isolated islands and mountainous regions, and provide emergency medicine and disaster response. SkyDrive Inc. has been developing a flying vehicle right here in Toyota City. Repetitive development and flight-testing of a 1/5 scale vehicle has succeeded in safe and stable flight as of 2020 through hundreds of trial flights in a manned flight model. SkyDrive will advance the development and commercialization of these vehicles in the future in an endeavor that hopes to delivery flying vehicles to the world from the automotive city of Toyota.



ものづくりのミライ

Action 2

ものづくり創造拠点 SENTAN

ミライへの

挑戦



自由な発想で製品開発に取り組み、
自分たちの可能性を拓く

SENTANで活発に行われている取組の一つが、「ものづくりミライ塾」。市内中小企業などの若者を対象とした人材育成事業です。異業種の若手技術者が集まってプロジェクトチームを組み、「社会に役立つ」「今までにない」をコンセプトとした製品開発に励みます。2015（平成27）年からスタートし、現在は第4期生・第5期生が活動中です。

塾生の一人は、「ものづくりミライ塾でチームを組むのは、普段の業務では競合他社となる企業出身のメンバーです。それぞれが異なる視点からアイデアを練り上げ、自由な発想で今までにない製品づくりに取り組むことができます。ものづくりの無限の可能性に挑む、貴重な機会だと実感しています」と確かな手応えを感じています。また、塾生を送り出す企業からは「社内では部署や担当に分かれ、開発の一部分に特化している社員が多いが、ものづくりミライ塾では企画から設計、試作品製作まで新製品開発の一連の流れをすべて体験できます。発想力や技術力、他者と協働する力が鍛えられ、社員の成長を頼もしく感じています」といった声が寄せられています。



ものづくり創造拠点SENTANでは、ものづくり企業のOBがテクニカルスタッフとして、長年の経験に基づく知識や技術、ものづくりへの情熱を若者たちに伝えています。

人づくりが、イノベーションを起こす

ものづくりは、人づくり
未来志向の創造拠点

ものづくり関連の仕事に就く人や起業を志す人・団体などが集まる場所「ものづくり創造拠点SENTAN」。豊田市名誉市民 豊田英二氏のご遺族からの寄附金を活用して、2017（平成29）年、挙母町にオープンしました。

SENTANは、人やアイデアをつなげる「交流スペース」、アイデアをカタチにする「ものづくりスペース」のほか、セミナールーム、サイエンスルームがあり、異業種交流、アイデア創出、試作開発、情報発信、人材育成などに活用されています。2019（令和元）年度の利用者は1万2,000人以上、登録団体は2020（令和2）年10月末時点で53団体。利用者・登録団体ともに年々増加しています。

ものづくりにとって大切なことは「人づくり」です。SENTANでは、工作機械の技術指導を行うテクニカルスタッフを配置するほか、子どもたちのものづくりへの関心を高めるイベントなども開催し、豊田市のミライを担うものづくり人材を育成しています。



ものづくり創造拠点SENTANの交流スペース



【NEWS】新たな水素ガスの製造方法を塾生たちが発明

「ものづくりミライ塾」第1期生水素チームの塾生と指導員が、家庭用水素発生・発電装置の開発過程で「新たな水素ガスの製造方法」を発明しました。豊田市が特許を出願し、2020（令和2）年6月に三河地域の自治体では初となる特許権を取得しました。

ミライを切り拓くのは「人」の力

電気自動車の普及や自動運転技術の開発競争など、自動車産業は大きな変革期を迎えています。

こうした急激な変化の中にあっても変わらないものは、未来を切り拓く人の力です。イノベーションを促すものは、いつでも人の発想力。SENTANという施設名には「閃鍛：閃き（発想）を鍛える」という意味が込められています。また、「千鍛：千の訓練で鍛えれば事は全うできる（根気）」「先端：先（未来）に行く」という思いも込められ、実直にものづくりに取り組み、ミライを形づくっていく人材の育成を目指しています。

こうした取組は、ものづくりのまち豊田市だからこそできること。SENTANでは今日も新たなイノベーションの芽が育っています。

Nurturing people inspires innovation.

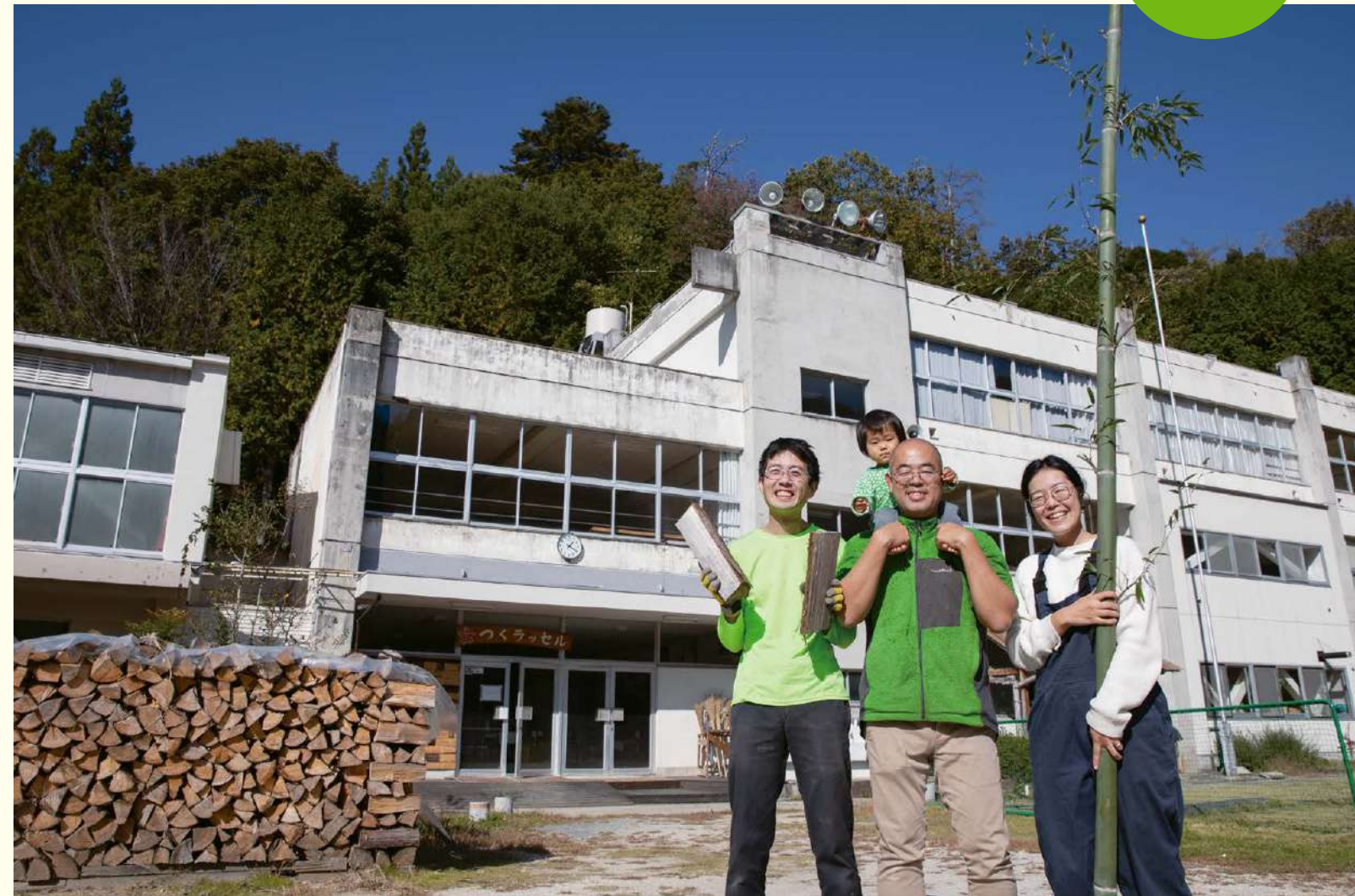
Monozukuri Creative Base SENTAN is a hub for people working in manufacturing as well as entrepreneurs and companies looking to develop new projects and businesses. This hub offers a technical staff that provides technical guidance on machine tools as support for up-and-coming businesses while also holding seminars and training to spark children's interest in manufacturing and various other events to develop human resources entrusted with the future of Toyota City. These efforts are only possible because of Toyota City's deep ties to manufacturing. SENTAN is nurturing potential today for innovation tomorrow.

地域づくりのミライ

ミライへの
挑戦

Action 3

つくラッセル



旧築羽小学校の校舎を活用した、地域づくりを担う人材創造拠点「つくラッセル」

持続可能な地域を、みんなでつくる

廃校になった小学校から、
地域のミライを見据える

旭地区の山あいに佇む3階建ての建物は、少子化の影響で2012(平成24)年に廃校となった築羽小学校の校舎です。その学び舎は137年の長きにわたり親しまれた、地域みんなの拠り所でした。その大切な学校を残したいと考えた有志が校舎や校庭を管理し、次の活用を模索しました。新たな風が吹き始めたのが、2018(平成30)年。築羽小学校は、地域づくりを担う人材創造拠点「つくラッセル」として再スタートしました。つくラッセルという名称は、「あのじいちゃん、ようつくらっせるなあ」という「つくる」に尊敬の気持ちを込めた方言が由来です。

つくラッセルの運営を担うのは、新聞店や福祉施設など地域に根ざした事業に励む戸田友介さんです。「地域のみなさんと交流し、地域のお困りごとと向き合う中で、なんでも屋のように仕事や活動を広げています」と話す戸田さん。2010(平成22)年に1ターニン移住し、過疎化が進んでいた旭地区の課題解決に挑んできました。



株式会社M-easy代表取締役、株式会社あんじやない代表取締役、小渡小原販売店戸田新聞店代表、一般社団法人おいでんさんそん理事など、多くの肩書を持ち、新たな事業に取り組む戸田さん。夫婦で移住して10年。4人の子供たちがここ旭地区で生まれ育っています。

地域の「つどう・はたらく・つくる」拠点

「つどう・はたらく・つくる」がコンセプトのつくラッセルは、地域の人と人が関係を広げるための施設です。旧校舎にはレンタルオフィスやコワーキングスペース、シェアオフィス、オープン会議室、カフェなどがあり、旧校庭にはマレットゴルフ場や多目的広場などが整備されています。山村地域での安全・安心な移動をサポートする超小型モビリティ「里モビ」の普及活動、地域の間伐材を活用した薪づくり、地域に昔から伝わる生活や文化などを学ぶ「山里手習い塾」などの拠点にもなり、2019(令和元)年は毎月延べ500人がつくラッセルを活用。今後、太陽光発電システムを導入し、エネルギーの地産地消を目指すプロジェクトも予定されています。また、テレワークができる環境も整備されているため、都市部の企業に勤めながら、つくラッセルを拠点に働くなど、地域住民にとってライフスタイルの選択肢を増やす場所にもなっています。

人と人とのつながりが、 地域づくりの原動力

「暮らし」と「仕事」が両立できる。誰もが互いの得意を持ち寄って生かし合える。そんなミライを目指すつくラッセルでは、この地区に昔から住む人々、移住者、都市部の企業・研究機関など、多様な主体が関わり合いながら活動を展開しています。その人と人をつなぐ場所・仕組みづくりに奮闘しているのが戸田さんです。「これからの人口減少時代、地域を守るのは血縁・地縁だけではありません。『この地域が好きで、ここで暮らしたい・働きたい』という人たちが自分事として地域づくりに取り組み、一緒に汗をかくて笑い合う。そんな地域のあり方を、つくラッセルから広げたい」と戸田さんは力強く語ります。時代を超えて子どもたちを育て続けた築羽小学校のように、多くの人と人との関係を育んでいるつくラッセル。みんなが自分らしく輝ける地域のミライが、ここから築かれていきます。



①



②



③



④

①シェアオフィスやオープン会議室などを整え、多様な働き方に対応 ②山里での安全で快適な移動を実現する超小型モビリティ「里モビ」 ③藍染め、茶摘み、五平餅づくりなど多様な内容の「山里手習い塾」 ④校庭を活用したマレットゴルフ場は、地域住民の憩いの場所

All engaged in the creation of a sustainable region.

Tsuku-Rasseru is a place expanding relationships between people in the region based on a concept to gather, work, and create. The organization uses schools that have closed as rental offices, co-working spaces, shared offices, open conference rooms, cafés and a wide range of other applications. The old school grounds are also refurbished for mallet golf and other multi-purpose spaces. These sites host a Mountain Training Workshop with activities to promote the ultra-compact woodland mobility vehicles that support safe and secure travel in hilly and mountainous regions, reuse the wood resulting of forest management as firewood, and education on traditional lifestyles and customs of the region. A total of 500 people used Tsuku-Rasseru every month in 2019.

いなか暮らしのミライ

ミライへの
挑戦

Action 4

敷島自治区



敷島自治区の宝物である、美しい田園風景と山並み。定住促進に力を注ぎ、山村振興が進んでいます。



敷島自治区では、住民同士の温かな交流が行われています。

子育て世代を惹き付ける、山里の豊かな暮らし

地域全体の協力のもと移住者の受入れに取り組んできた敷島自治区。移住者たちは敷島自治区のどんなところに魅力を感じて移り住んできたのでしょうか。

2019（平成31）年に日進市から移住してきた深谷さんファミリーは、敷島自治区の豊かな自然環境に惹かれたと言います。「3人の子どもたちをのびのびと育てたいと考え、自然豊かなこの地に移住することを決めました。子どもたちは広い庭や畑を駆け回り、自分で工夫して遊ぶなど、健やかに創造力を培いながら成長しています。そんな成長の様子を穏やかに見守ることができて、ここに移住してきて良かったと心から思います。」

移住者の多くは深谷さんファミリーと同じ子育て世代で、山里の豊かな自然が気に入って移住してきています。敷島自治区の自然環境は、先人たちが農業や林業を営む中で形づくられてきた地域の宝物。敷島自治区では、こうした宝物を次代に向けて残していくための活動も、住民主体で行っています。また、移住者たちも、有機栽培農園や農家民宿など、地域資源を活用した取組を行い、地域の活性化につなげています。



木の香りに包まれた古民家で暮らす深谷さん。春は山菜・筍採り、夏は川遊びなど、四季折々の楽しみがあり、敷島自治区での心豊かな日々を大切にしています。

「いなからしさ」をミライへ受け継ぐ

「しきしまときめきプラン」を起点とする敷島自治区の取組は、総務省が選定する「令和2年度過疎地域自立活性化優良事例表彰」において、最高賞の「総務大臣賞」に選ばれるなど、全国的にも高く評価されています。

田園や山並み、文化など、先人から引き継がれる宝物を守り、さらなる磨きをかけることで、多くの人々が「訪れたい」「暮らしたい」山里となった敷島自治区。昔からここに住む人も、移住してきた人も「大好きな敷島自治区をより良くしていきたい」という思いを分かち合い、笑顔あふれるミライに向かって新たなチャレンジを重ねています。

山里の美しい風景を、みんなで守り継ぐ

ふるさとのために、
自分たちでミライを変える

愛知高原国定公園の西端に位置する自然豊かな敷島自治区は、かつて市内で最も過疎の深刻な地域でした。地域の存続に直結する過疎化の進行をいかにして食い止めていくかが自治区の大きな課題でした。そこで立ち上がったのが自治区の住民たちです。2010（平成22）年に地域の将来ビジョンをまとめた「しきしまときめきプラン」を策定。地域住民自らが自治区の将来像を描き、それを達成するため、空き家の整備や移住希望者との交流会の開催など、地域全体を巻き込んだ取組を行ってきました。

その先導役を務めたのが「しきしまときめきプラン」の策定委員長である鈴木辰吉さん。「最初は地域の課題を住民みんなで共有するところから始めました。共通認識を持つことで、空き家の提供などの協力の輪も広がり、最終的には移住者の増加につながりました」と当時を振り返ります。

敷島自治区はこの10年間で40世帯98人の移住者を受け入れてきたほか、交流人口が年間5,000人以上するなど、着実に取組の成果が表れてきています。



「しきしまときめきプラン」の策定委員長を務めた鈴木さん。生まれ育った敷島自治区の振興に力を注いでいます。



「総務大臣賞」の受賞を市長に報告しました。

Protecting the beautiful mountain landscapes.

The way to overcome the grave challenge of an ever-declining population ties directly to the question of how to preserve the region. The Shikishima District drafted the Shikishima Tokimeki Plan in 2010 as a brief on the future vision for the region. In this plan, the local community envisioned a future for the district and engaged in efforts throughout the entire territory to realize that vision from repairs to vacant homes to gatherings for people who would like to move to the area. These sincere and ongoing efforts established proven success by not only helping 98 people move into 40 households over ten years but also bringing together 5,000 people annually at community exchange events.





特に力を入れて
取り組むこと

1

生涯活躍の推進

身近な地域で誰もが楽しみながら気軽に参加できる健康づくりと介護予防を推進します。また、高齢期においても活躍できる機会や場を充実させ、各関係機関・窓口のさらなる連携と情報共有を促進します。

【主な取組】

- ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）※を活用した社会参加型の介護予防
- 地域特性に応じた健康づくり
- 高齢者の活躍支援

※ソーシャル・インパクト・ボンド（略称：SIB）／民間の活力を社会的課題の解決に活用するため、民間資金を呼び込み、成果報酬型の委託事業を実施する取組

安心して暮らせる 地域包括支援体制の強化

在宅療養に携わる人材の育成、オンライン診療をはじめとするICT機器の活用など、在宅を起点とした医療・介護環境を計画的に確保します。課題を抱える住民に対して継続的な伴走支援と多機関の共働による支援の体制を構築します。

【主な取組】

- 在宅医療・福祉連携の推進
- 重層的支援体制の推進
- 認知症に関する総合的な取組（早期発見と社会参加）

Adapting to a Super Aging Society

●Promoting Lifelong Careers

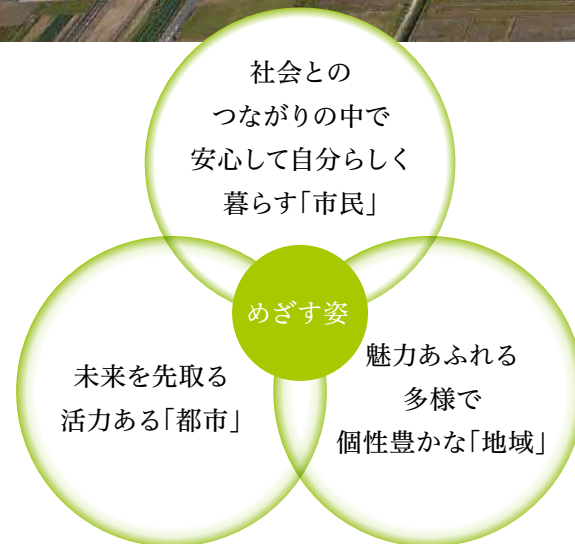
Toyota City encourages better health and preventative care close to home that is both easily accessible and fun for everyone. People in their later years can actively take advantage of opportunities and enhanced spaces to strengthen links of each relevant agency and service counter and encourage informational sharing.

●Reinforcing Comprehensive Area Support Systems for Peace of Mind in Daily Life

Toyota City nurtures human resources involved in home care and regularly secures medical and nursing care environments starting in homes, such as the use of ICT technology that includes online medical consultations. Toyota will build systems for continuous companionship and multi-organizational cooperation for residents facing challenges.



70年の先へ



The Pursuit of Greater Urban Development in Toyota City

Image of Toyota City in the Future

Connected, Creative and Enjoyable Toyota City

Toyota City aims to create diverse value and potential and enjoyable living while recognizing, deepening, and making use of the bonds between people as well as their connection with the region and nature in ways that benefit everyone.

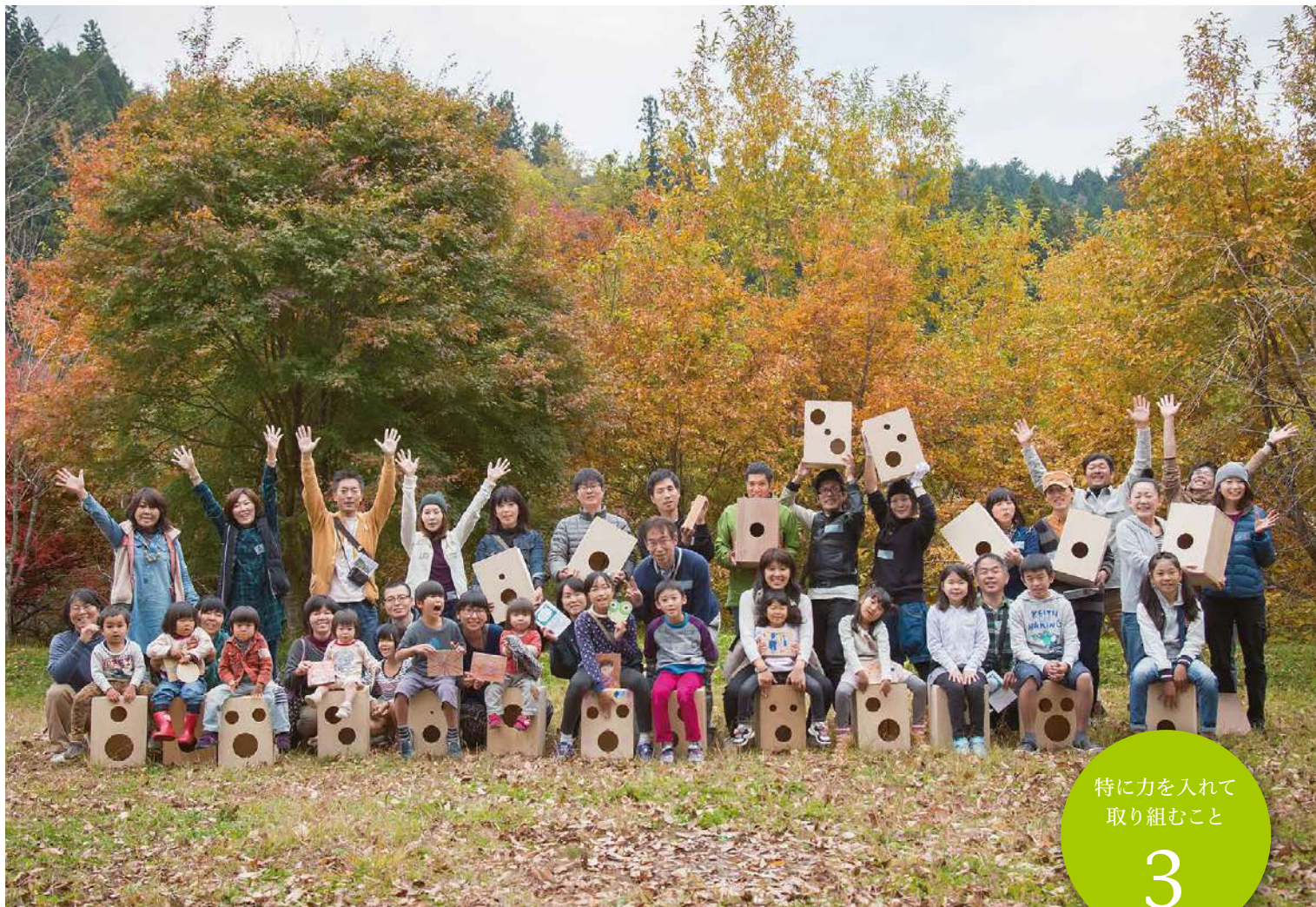
将来都市像

つながるつくる 暮らし楽しむまち・とよた

超高齢社会の進展、産業構造の変化、新型コロナウイルス感染症による「新たな日常」など、社会や経済が大きな転換期を迎えています。そんな時代の先を見据え、豊田市は「将来都市像」や「めざす姿」の実現に向けた施策・事業に取り組んでいます。市民力、地域力、企業力、行政力を生かし、活力と魅力のある持続可能なまちづくりを進めていきます。

人と人、人と地域、自然とのつながりを深め、認め合い、生かし合う中で、多様な価値や可能性をつくりだし、暮らしを楽しむことができるまちを目指します。

豊田市が進める まちづくり



特に力を入れて
取り組むこと

3



特に力を入れて
取り組むこと

2

「ひと」と「しごと」が集まる ミライへの 投資

産業拠点としての機能強化

成長が期待できる分野への投資や研究開発機能の強化を促すなど、将来の産業拠点として生産・研究機関などの一層の高度化を図ります。事業化までの課題解決を支援し、市内外からのスタートアップの誘発、誘引を促進します。

【主な取組】

- 企業立地の奨励
- 市内企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)※の促進
- スタートアップ支援

※デジタルトランスフォーメーション(略称:DX)／企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること

住み続けたいまちづくり

住宅・宅地の供給、山村地域への移住・定住の促進、子育て世帯への切れ目のない支援、公共交通の利便性向上などを進め、住みやすいまちを目指します。また、歴史、文化、自然など豊田市の価値や魅力を継承するための取組も推進します。

【主な取組】

- 定住促進プロモーション
- いなか暮らしコーディネート
- 博物館の整備

まちの課題 解決力の強化

多様な「つながり」による 豊かな暮らしの創出

SDGsの達成、地域ぐるみの子どもの教育、関係人口の創出による山村地域の新たなまちづくりなどにおいて、多様な担い手同士をつなぐプラットフォームにより、効果的・効率的な地域課題の解決を図ります。また、都市内分権の成熟を目指します。

【主な取組】

- 次世代社会システムの推進
- 交流コーディネート
- 交流館と地域学校共働本部の強化

持続可能な地域経営

新型コロナウイルス感染症の対応で培った経験や、気候変動への適応、国土強靱化の視点を踏まえ、市民の安全・安心の確保を進めます。また、ICTの活用による新たな時代に適応した行政サービスのスマート化と質の向上を図ります。

【主な取組】

- 市役所のデジタル化・スマート化
- 事業・事務の最適化
- 公共施設等の総合的な管理の推進

Reinforcing Capabilities to Resolve Issues in the City

● Creating Prosperous Lives via Diverse Connections

Toyota City is making efforts to efficiently and effectively resolve local challenges through platform that connect various responsible parties entrusted to achieve the SDGs, educating children in every region, and providing new community development in mountainous regions by growing a relevant workforce as well as furthering decentralization within the City.

● Sustainable Regional Management

Toyota City will ensure better safety and security of local citizens by taking advantage of its experience gained while handling the COVID-19 pandemic, responding to climate change, and considering national resilience. The use of ICT is also realizing smart government services suitable for a new generation while also improving the quality of those services.

Investing in the Future to Connect People and Jobs

● Enhancing Functionality as an Industrial Center

Toyota City drives next-level advancements as an industrial center of the future whether in manufacturing or research facilities. This includes investments in fields forecast to grow and in the promotion of stronger research and development capabilities. Support to address issues through commercialization inspires and attracts startups from inside and outside of the city.

● Building a City People Want to Live in Long Term

Toyota City is pushing boundaries with the goal of a city where people live comfortably whether by supplying housing and residential land, promoting migration and permanent residence in mountainous areas or offering seamless support for households raising children and improving the convenience of public transportation. Toyota City also promotes initiatives to pass down its value and charm from its nature and history to its culture.



Clear Initiative 3

Health & Welfare

Realizing a City Where Everyone Lives with Good Health and Peace of Mind

- Enhance environments in which people can continually better their health
- Strengthen the ability to respond to health crises
- Secure healthcare systems that provides medical examinations when needed.
- Enhance support systems that can help seniors live safely
- Build environments in which people with disabilities can live unencumbered in local communities
- Ensure systems that provide appropriate support to people facing economic hardships

着実に取り組むこと

3

健康・福祉

- 誰もが健康やかに
安心して暮らせるまちの実現
- 誰もが健康づくりを継続できる環境の充実
 - 健康危機への対応力の強化
 - 必要な時に受診できる医療提供体制の確保
 - 高齢者が安心して生活できる支援体制の充実
 - 障がい者が地域社会で共生できる環境の整備
 - 生活困窮者が適切な支援を受けられる体制の確保

着実に取り組むこと

1

子ども・子育て

- 安心して子育てができる
まちの実現
- 子どもの権利の保障
 - 安心して子どもを生み育てられる環境の充実
 - 安心して子どもを預けられる環境の整備



Clear Initiative 1

Children & Raising Children

Realizing a Safe City to Raise Children

- Guarantee the rights of children
- Enhance environments to safely have and raise children
- Build environments that offer safe daycare

着実に取り組むこと

4

安全・安心

- 市民の生命・財産が守られ、
安全・安心に暮らせるまちの実現
- 自助・共助・公助による災害対策の充実
 - 防災・減災につながる都市機能の強化
 - 自助・共助・公助による消防対応力の強化
 - 地域ぐるみの防犯体制の強化
 - 交通安全意識の向上と安全な道路交通環境の実現



Clear Initiative 4

Safety & Security

Realizing a Safe and Secure City Which Protects the Lives and Property of Its people

- Strengthen disaster prevention measures via independent, cooperative and public support
- Strengthen urban functions that help reduce and prevent disasters
- Strengthen fire-fighting capabilities via independent, cooperative and public support
- Strengthen crime prevention systems in all regions
- Raise traffic safety awareness and realize safe road traffic environments

着実に取り組むこと

2

生涯学習

- 生涯を通じて学び・育ち、
誰もが活躍できるまちの実現
- 生き抜く力を育む学校教育の推進
 - 安全・安心で快適に学べる教育環境の充実
 - 地域による次世代人材の育成の促進
 - まちへの誇りや愛着につながるものづくり学習の推進
 - 高齢者が活躍できる環境の充実
 - 女性が活躍できる環境の充実
 - スポーツ資源を生かした活力ある社会の実現
 - 歴史や文化財の継承と魅力の発信
 - 文化・芸術を生かしたまちの魅力づくりの推進



Clear Initiative 2

Lifelong Learning

Realizing a City Where Everyone Learns and Grows and Actively Participates through Lifelong Learning

- Promote academic education cultivating lifelong skills
- Enhance educational environments for safe, secure and pleasant learning
- Encourage human resource development for the next generation of the region
- Promote manufacturing education that helps build pride and love for the city
- Enhance environments in which seniors can actively participate
- Enhance environments in which women can actively participate
- Realize an energetic society capitalizing on sports resources
- Pass down and share the charm of historical and cultural assets
- Take advantage and promote culture and art to generate appeal for the city



Clear Initiative 7

Urban Development

Realizing a Comfortable, High-quality City Supporting Lifestyles and Industry

- Shape a lively and attractive urban area
- Shape a highly-convenient urban area
- Promote urban residents able to satisfy diverse needs
- Create recreational and cheerful green spaces
- Construct a road network that supports lifestyles and industry
- Construct a highly-convenient and sustainable public transportation network
- Promote urban development with safe and comfortable transportation friendly to both people and the environment
- Realize a safe, secure and stable public water supply
- Properly process sewage to realize a comfortable living environment

着実に取り組むこと

7

都市整備

生活と産業を支える
快適で質の高いまちの実現

- 賑わいのある魅力的な都心の形成
- 利便性の高い市街地の形成
- 多様なニーズに応える市街地定住の促進
- 憩いというおいをもたらし緑の空間の創出
- 生活・産業を支える道路ネットワークの形成
- 利便性が高く持続可能な公共交通ネットワークの形成
- 人と環境にやさしく安全で快適な交通まちづくりの推進
- 安全・安心な水道水の安定供給の実現
- 汚水の適正な処理による快適な生活環境の実現

着実に取り組むこと

5

産業・観光・交流

多様な資源が生かされ、
未来に挑戦する活力のあるまちの実現

- 地域特性に応じた産業型農業の推進
- 地域を支える「食と農」の推進
- 100年先を見据えた安全・安心の森づくりの推進
- 地域材の生産・流通・利用の推進
- 地域産業の持続的発展に向けた企業力の強化
- 新たな産業を創造する基盤の構築
- 中心市街地商業の賑わいの創出
- 地域特性に応じた商業環境の整備
- 多様な地域資源を生かした観光産業の振興
- 地域資源を生かしたまちづくりの推進
- 多様な働き方で多様な人材が活躍する環境の整備



Clear Initiative 5

Industry, Tourism and Exchange

Realizing a City Actively Persevering in the Future by Capitalizing on a Wealth of Resources

- Promote industrial agriculture suitable to the regional traits
- Promote food and farming that supports the region
- Promote safe and secure forestation in anticipation of the next century
- Encourage the production, distribution and use of local materials
- Strengthen corporate capabilities toward sustainable development of local industries
- Build a foundation to create new industries
- Create enthusiasm for local commerce on central streets
- Build commercial environments suitable to the regional traits
- Bolster tourism that takes advantage of the wealth of local resources
- Promote urban development that leverages local resources
- Build environments in which diverse human resources can actively participate through a variety of work styles

着実に取り組むこと

6

環境

人と自然が共生する
環境にやさしいまちの実現

- 脱炭素の実現に向けた未来都市の推進
- 廃棄物の減量化・資源化と適正処理の推進
- 暮らしを豊かにする生物多様性の保全
- 持続可能な社会を支える環境配慮行動の促進



Clear Initiative 6

Environment

Realizing an Eco-friendly City Where People and Nature Coexist

- Promote a futuristic city to realize decarbonization
- Promote the reduction, recycling, and proper processing of waste
- Preserve the biodiversity enriching our lives
- Encourage eco-friendly action that support a sustainable society

着実に取り組むこと

8

地域経営

市民力・地域力・企業力・行政力が
発揮される自立した地域社会の実現

- 市民力・地域力・企業力を生かした共働のまちづくりの推進
- 多様な市民が活躍できる国際まちづくりの推進
- 自立とつながりによる山村地域等の振興
- 未来を見据えた持続可能な行財政運営
- 公共施設等の適切な管理の推進
- 先進技術などを活用した地域課題解決の推進
- 共働による地域情報化の推進
- 戦略的な広域連携の推進



Clear Initiative 8

Regional Management

Realize an Independent Local Community Exhibiting Civic, Regional, Corporate, and Administrative Capabilities

- Promote cooperative urban development that leverages civic, regional and corporate capabilities
- Promote an international city where diverse citizens can actively participate
- Vitalize mountainous areas and other regions in a way that helps facilitate independence
- Engage in sustainable administration and public finance that anticipates the future
- Promote appropriate management of public facilities and other institutions
- Promote solutions to regional issues that utilize leading-edge technologies
- Promote joint efforts toward an information-based region
- Promote broader strategic links



英国

ダービーシャー県／ダービー特別市／南ダービーシャー市

The 70th anniversary of Toyota City.

A message from

Derbyshire County Council / Derby City Council / South Derbyshire District Council / and Toyota City Partnership Board

It is a great honour for the three sister councils in Derbyshire and Derby to be invited to make a contribution to this anniversary brochure. The friendship which all three share with Toyota City Council has deepened the cooperation between us; in 2018, to celebrate the 20th anniversary of our friendship with Toyota City we created the Toyota City Partnership Board.

This friendship has shown that we have a great deal in common. By getting to know each other better we have discovered more connections. Historically we both have silk production in our past. When your city was called Koromo it produced silk and we have the Derwent Valley Mills World Heritage Site running along 15 miles of the river Derwent which produced cotton and silk in the 19th century.

Now we both have close connections with the Toyota Motor Corporation and are both working with them on mobility innovations for the future.

We share with you a concern for environmental sustainability and a love of forests. You have the Forest of Toyota and we have the National Forest which covers part of our area. In the future we would like these forested areas to learn side by side and combat climate change together. We are also very fortunate to have been gifted 163 Sakura cherry trees by businesses in Japan as part of the Japanese Season of Culture in the UK. One hundred of these trees will be planted in public spaces in each of the three council areas so that we can begin to appreciate Hanami, and 63 schools will each have one tree. Through these trees we hope to grow the roots of a stronger friendship.

Over the 22 years of our friendship, school and college exchanges have created many opportunities for our young people and we look forward to starting these exchanges again when it is safe to do so. We are also planning to increase the range of opportunities using virtual technology so that younger pupils may also develop friendships. During Covid-19 our partner college, Burton and South Derbyshire College has developed a virtual platform and we will use these skills to create exchange experiences. In South Derbyshire the Repton School continues to have strong links with Toyota Nishi High School. We have also grown strong ties between the University of Derby and Chukyo University which are working together in a research collaboration on Nature Connectedness – the wellbeing we feel when we are connected to nature.

2019 was a year of rugby and we were very proud to be able to display something of our sporting heritage during the time of the Rugby World Cup in Toyota City. We have strong links with football and have been able to share some of this experience with visitors from Japan and to invite pupils from the Derbyshire Japanese School to walk England players out onto the Wembley Stadium pitch at the start of a recent international match. Shared sporting experience is at the heart of many friendships. This friendship is increasingly important to us as we face the future. We are living in a time of uncertainty and rapid change and we all need to work together to solve problems, learn from one another and make progress together. Only by reaching out do we become stronger. So this is a wonderful time to celebrate the 70th anniversary of Toyota City and stand proud to be counted as your friends into the future. We congratulate you.



ダービーシャー県(Derbyshire County)

代表者：バリー・ルイス(Councillor Barry Lewis)

肩書：ダービーシャー県リーダー(Leader of Derbyshire County Council)



南ダービーシャー市(South Derbyshire District)

代表者：デーヴィッド・ムラー(Councillor David Muller)

肩書：南ダービーシャー市議長
(Chairman of South Derbyshire District Council)

※豊田市パートナーシップ推進協議会／2018(平成30)年、姉妹都市提携20周年を記念して設立。豊田市とダービーシャーが、様々な共通目標の分野で共に活動する組織で、ダービーシャー3自治体のリーダー等の関係者、ダービー大学、バートン&サウスダービーシャーカレッジ、英国トヨタ自動車、ナショナルフォレスト等、双方の友好関係のさらなる発展に関わる団体の代表者等で構成されている。

豊田市70周年のお祝いメッセージ

ダービーシャー県／ダービー特別市／南ダービーシャー市／豊田市パートナーシップ推進協議会

姉妹都市であるダービーシャー3自治体が、この記念誌への寄稿を依頼されたこと、大変光栄に思います。豊田市との友情が互いの協力関係を深め、2018年に姉妹都市提携20周年を記念してダービーシャー3自治体は「豊田市パートナーシップ推進協議会※」を設立しました。

豊田市とダービーシャーには、多くの共通点があります。お互いのことをより知ること、さらなるつながりを発見しました。「挙母」と呼ばれていた時代、豊田市は絹を生産し、そしてダービーシャーも19世紀に綿と絹を生産していました。ダーウェント川流域に「ダーウェント峡谷の工場群」という世界遺産があります。

現在、ダービーシャー3自治体は英国トヨタ自動車と密接に関わり合い、将来に向けたモビリティ革命に取り組んでいます。私たちは、地球環境の持続可能性への懸念と森林への愛着を共有しています。豊田市には豊かな森林があり、ダービーシャーにも広大なナショナルフォレストがあります。将来的には、私たちの森で共に学び、気候変動と一緒に立ち向かうことを望んでいます。また、日英文化季節活動の一環として、日本企業から英国に163本の桜の木が贈られたことは、とても幸せなことだと感じています。これらの桜の木は公共スペースに100本植えられ、花見が楽しめます。63の学校にも1本ずつ桜の木が植えられました。桜の木々を通して、私たちは日本や豊田市と、より強い友情を育てたいと思っています。

22年間の友情の中で、学校や大学の交流は若者たちに多くのチャンスを生み出してきました。安全な時期にこれらの交流を再開できることを楽しみにしています。また、子どもたちも友情を育むことができるように、バーチャルテクノロジーを使用して交流の幅を広げることを計画しています。コロナ禍において、私たちのパートナーカレッジであるバートン&サウスダービーシャーカレッジはバーチャルプラットフォームを開発しました。これらのスキルを活用して親交を深めたいと考えています。南ダービーシャー市のレプトンスクールは、引き続き豊田西高校と強いつながりを持続けます。また、ダービー大学と中京大学は、メンタルヘルスと自然に関する共同研究を行い、強い絆を築いています。

2019年はラグビーの年でした。豊田市で開催されたラグビーワールドカップの期間中、英国のスポーツ文化の一部を豊田市で展示できたことを非常に誇りに思います。サッカーと強いつながりがある私たちは、国際試合が行われるウェンブリースタジアムにダービーシャー日本人補習校の生徒を招待しました。共にスポーツに熱中する体験は、友情を大きく育みます。

私たちが未来に向かうにつれて、豊田市とダービーシャー3自治体の友情はますます重要なものになっています。私たちは不確実で急速に変化する時代に生きており、問題を解決し、互いに学び、共に進歩するためにみんなが協力する必要があります。手を差し伸べ合うだけで、私たちは強くなります。豊田市の70周年を祝う素晴らしい時に、姉妹都市であり続けられることを誇りに思います。おめでとうございます。



ダービー特別市(City of Derby)

代表者：クリストファー・ポウルター(Councillor Christopher Poulter)

肩書：ダービー特別市リーダー(Leader of Derby City Council)



豊田市パートナーシップ推進協議会※(Toyota City Partnership Board)

代表者：トニー・キング(Councillor Tony King)

肩書：豊田市パートナーシップ推進協議会代表(ダービーシャー県議会議員)
(Chair of the Toyota City Partnership Board
(Councillor of Derbyshire County Council))



姉妹都市からのメッセージ

豊田市は「クルマ」をキーワードに2か国・4自治体と姉妹都市提携を結んでいます。

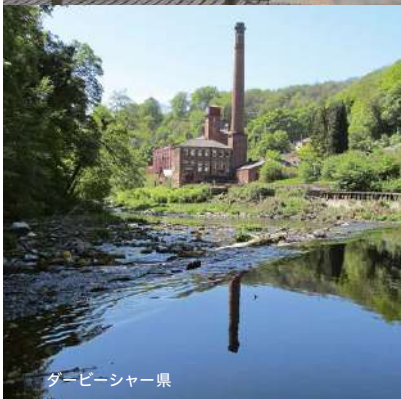
1960(昭和35)年9月に米国デトロイト市と、1998(平成10)年11月に英国ダービーシャー3自治体と姉妹都市提携を結び、

交換学生の派遣・受入れや互いのまちへの訪問などを通して交流を深めてきました。

豊田市が70周年を迎えるにあたり、デトロイト市とダービーシャー3自治体それぞれから温かなお祝いのメッセージが届きました。



南ダービーシャー市



ダービーシャー県



ダービー特別市



デトロイト市



米国

デトロイト市

It is my pleasure to join with the citizens of Toyota City and Detroit in celebrating such a momentous occasion – the 60th anniversary of our Sister Cities relationship. I am grateful for the commitment that has been demonstrated for six decades and led to many lifelong relationships and partnerships.

Even during this time when the world is faced with a pandemic that has changed how we live and work, it is good to be reminded of the importance of relationships, such as ours.

The individuals who have participated in the student exchange program, and educational and cultural exchanges point to their experiences in Toyota City and Detroit as being highlights of their lives.

It is my hope that the bond between our two great cities will continue to flourish and be the foundation for meaningful exchange of ideas and culture for decades to come.

Congratulations on this wonderful anniversary!



デトロイト市(City of Detroit)

代表者：マイク・ダガン(Mayor Mike Duggan)

肩書：デトロイト市長(Mayor of City of Detroit)

姉妹都市提携60周年という重要な節目を迎えて、豊田市とデトロイト市の市民が一緒にお祝いできることを嬉しく思います。60年間にわたって継続され、長い時間をかけて築かれた関係と提携に基づくパートナーシップに感謝しています。

世界中の生活や働き方を変えたパンデミックに直面しているこの時期、私たちのような友好関係の大切さを再認識しています。交換学生事業や教育・文化交流に参加した人々は、豊田市やデトロイト市での経験が人生においてとても輝かしいものだと感じています。

両都市の絆がさらに強く結ばれ、今後数十年にわたるアイデアと文化の有意義な交流の基盤となることを願っています。

市制70周年、おめでとうございます！

建造物



足助八幡宮本殿 附棟札7枚
室町時代中期／足助町

工芸

梶鳥糸威鎧大袖付は原形をとどめ現存する国内最古の大鎧です。1083（永保3）年後三年の役において三河武士・伴次郎助兼の功績に源義家が下賜し、その後中条氏へ渡り、衣城主・中条詮秀が猿投神社に寄進したと伝えられています。太刀銘行安、黒漆太刀と並ぶ重要文化財です。



梶鳥糸威鎧大袖付
猿投神社蔵／平安時代

絵画

紙本着色織田信長像は歴史の教科書などで紹介される有名なもの。現存する信長像のうち最も真に近いものの一つといわれています。



絹本着色親鸞上人絵伝
如意寺蔵／室町時代



絹本着色無為昭元像
長興寺蔵／鎌倉時代



絹本着色仏涅槃図
長興寺蔵／室町時代中期

豊田市の文化財

歴史のきらめきを未来へ

豊田市には、現在合わせて325件の指定文化財があります。数々の貴重な文化財のうち、国指定の文化財を紹介します。

彫刻



木造観音菩薩坐像
平勝寺蔵／平安時代末期

無形民俗文化財



綾渡の夜念仏と盆踊
綾渡夜念仏と盆踊り保存会／綾渡町

史跡

松平氏は徳川家康の祖で、松平町が発祥地とされています。この地に残る遺構のうち松平氏館跡、松平城跡、大給城跡、高月院の4か所が初期松平氏の様相を伝えていることから一括して松平氏遺跡の名称で史跡指定を受けています。



松平氏遺跡
(松平氏館跡／松平城跡／大給城跡／高月院)
室町時代／松平町



舞木廃寺塔跡
飛鳥時代／舞木町



杉本の貞観スギ
樹齢1100年(伝承)／神明神社(杉本町)

Cultural Treasures of Toyota City

History will illuminate the future.
Toyota City currently has 325 designated cultural treasures.
Let us introduce some of the many precious cultural treasures designated by Japan as tangible cultural properties.

(左)黒漆太刀 猿投神社蔵／鎌倉時代
(右)太刀銘行安 猿投神社蔵／平安時代末期



文書・書跡

この地域の歴史を知る手がかりとなる貴重な資料が多くあり、猿投神社漢籍、本朝文粹、古文孝経の三つの重要文化財はすべて猿投神社が所蔵しています。



本朝文粹
猿投神社蔵／鎌倉時代



猿投神社漢籍
猿投神社蔵／鎌倉～室町時代



古文孝経
猿投神社蔵／鎌倉時代初期

考古資料、天然記念物

豊田大塚古墳出土須恵器には脚付壺3点、四連坏付器台3点、四連壺付器台1点、坏10点、蓋5点などを中心に、学術的に非常に価値の高いものが出土しています。猿投山の球状花崗岩はその断面の模様が菊の花に似ていることから「菊石」と呼ばれ、きわめて珍しいことから天然記念物に指定されています。



豊田大塚古墳出土須恵器
郷土資料館蔵／古墳時代後期



猿投山の球状花崗岩
加納町広沢ほか



紙本着色織田信長像
長興寺蔵／安土桃山時代



三河湖



旭高原元気村



豊田市コンサートホール・能楽堂



豊田市美術館

何度も訪れたくなる、
自慢のスポット

Tourist destination

豊田市の名所



足助の古い町並み



川見四季桜の里



香嵐溪



面ノ木樹氷



豊田スタジアム

愛知県で最も面積が広く、都市と山村が共生する豊田市。
広大な市域には魅力あふれる様々なスポットがあり、
訪れる度に新しい出会いや発見が待っています。

Famous Places in Toyota City

Toyota City prides itself on spots you do not want to miss no matter how many times you visit.

Toyota City is the largest area in Aichi Prefecture made up of the city as well as towns and villages. The broad urban area offers a variety of delightful spots that hold new encounters and discoveries with each visit.



石畳足湯



松平東照宮



ふじの回廊



上中のしだれ桃

茶

豊田市の茶栽培の起源は文化文政（1804～1829年）の頃と歴史は古く、現在は高岡地区、上郷地区、下山地区、藤岡地区を中心に約78ヘクタールの茶園で生産され、県内でも有数の茶どころとなっています。やぶきた品種を主に、良質な「てん茶」「かぶせ茶」「せん茶」がつくられています。また豊田市の独自ブランド「とよた茶」も人気商品です。



梨

「幸水」「豊水」「新高」「愛宕」と、多彩な品種が栽培されています。光センサーを導入し、品質の安定化に力を入れています。中でも、重さ約2キログラム、ジャンボ梨として知られる「愛宕」は全国有数の生産量で、品の良い甘味があることから、贈答用として人気があります。



恵まれた気候と、育てる人の心が生んだ「とよたブランド」

Toyota Brand

豊田市の名産品

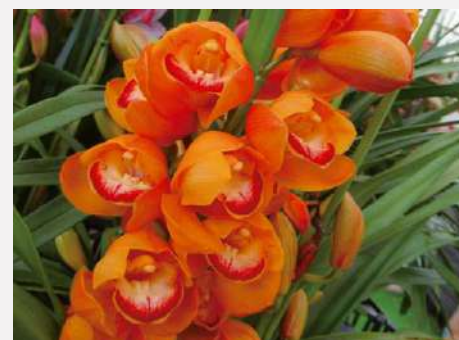
七草

正月7日に無病息災を願って食べられる「七草がゆ」。豊田市では、松平地区の湿田で転作作物としてセリ栽培が盛んになり、セリが「春の七草」の代表であることから、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロを加えて栽培するようになりました。この春の七草をパックに詰めた「七草がゆセット」は、名古屋市や岡崎市などへも出荷されています。



花き

冬の高級花として知られる洋ランの一種、シンビジウムは、華やかで気品のある姿から、贈答用として人気の花。1976（昭和51）年から始めた設楽町への「山上げ栽培」により、花の芽付きや色つやの良さが市場で高く評価されています。また下山地区や稲武地区などでは、昼夜の温度差と夏の冷涼な気候を生かし、小ギクの栽培も盛んです。



自然薯

自然薯は、山菜の王様といわれ、滋養・強壮の健康食材として古くから親しまれてきました。豊田市内では、藤岡地区、稲武地区、旭地区、下山地区といった山間部で、冷涼な気候のもとに栽培されており、中でも旭地区は、愛知県下で最も早い1978（昭和53）年から栽培に取り組んできました。最近では、強い粘りと豊かな風味が特徴の「夢とろろ」を主流に栽培しています。



矢作川の流れて続く肥よくな大地、恵まれた気候のもとに育てられてきた豊田市の農産品の数々。いずれも高い品質を認められ全国に出荷されています。

Famous Local Products of Toyota City

The Toyota Brand Born from a Blissful Climate and Spirit of Nurturing People

Numerous agricultural goods of Toyota City have found life nurtured by the rich soil of the banks along the Yahagi River and the blessed climate. These local specialty products have all been recognized for their amazing quality and are shipped throughout Japan.

桃

豊田市の夏を代表する果物。収穫時は、傷がつかないように一つ一つ丁寧に手で摘み取られ、その日のうちに選果場に運ばれます。桃栽培が盛んに行われているのは猿投地区。一帯は3～4月になると整然と並ぶ木にピンクの花が咲き広がり、猿投地区に春の到来を告げます。



米（生産量県内第1位）

年間1万3,500トン、収穫量県内第1位を誇る豊田の米。市南部に広がる水田は、農業都市でもある豊田市の一面を見せてくれます。平坦地では収穫時期の早い品種の「コシヒカリ」や、三河の新ブランド「大地の風」、中山間地域では寒さに強く味の良い「ミネアサヒ」を主に生産しています。近年は、米粉を使った麺類やパンなどが考案され人気を集めています。





「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」を 目指して共働の輪を広げます

◎職員数〔2020(令和2)年10月1日現在〕〔人〕

	男	女	計
行政職	1,249	638	1,887
消防職	516	111	527
医療職	2	2	4
教育保育職	22	788	810
技能労務職	185	23	208
総計	1,974	1,462	3,436

Reorganization and Regional Management System

The reorganization of Toyota City established fifteen departments and five bureaus to increase resident satisfaction and strengthen capabilities such as centralization and analysis of information, risk management, and cross-departmental cooperation throughout the entire organization. The regional management system defines a framework and main initiatives to further regional management from the two perspectives of city hall reforms and the promotion of a diverse and independent organization around the four pillars of promoting cooperation, establishing a "Toyota City quality" service, strategies to cultivate the future and a more resilient and flexible organization. Toyota City emphasizes this promotional synergy while striving to make unremitting administrative reforms founded in regional management principles based on its basic urban development ordinance as a basic philosophy.

市制70周年を迎えた豊田市は、時代の変化に対応し、将来にわたって活力ある都市として、持続的に発展していくため2017(平成29)年に策定した第8次豊田市総合計画の将来都市像「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」の実現に向け、市民力・地域力・企業力・行政力を生かした「共働」によるまちづくりに取り組んでいます。

組織編成及び地域経営システム

組織編成では、15部5局を設置し、住民満足度の向上や情報集約・分析、危機管理、組織内部の横断的連携などの強化を図っています。また、「地域経営」を進めるための仕組みや取組として、「市役所の改革」と「多様な主体の取組の推進」の2つの視点と「共働の推進」「豊田市役所品質の確立」「未来を創造する戦略」「柔軟で足腰の強い組織」の4つの柱立て及びそれに基づく主要な取組で構成された地域経営システムを構築し、まちづくり基本条例を基本理念とした「地域経営」の考え方にに基づき、共働の推進に力を入れながら不断の行政改革に取り組んでいます。

市民の意思を市政に反映させるため、 公平かつ適正な議論を尽くします

本会議と委員会

議会では、条例、予算、法律上要求される事項などについて審議します。会議は、定期的に開かれる「定例会(年4回、3・6・9・12月に開催)」と、必要に応じて開かれる「臨時会」があり、いずれも全議員で構成されています。会期中、議案などを審議するのが本会議。予備的な審査や詳細事項の調査は、各委員会で行っています。

議会の公開

本会議は議場(南庁舎7階)で行われており、どなたでも傍聴できます。また、本会議の代表・一般質問の様子は、市議会ホームページにて中継録画映像を放映しているほか、「FMとよた」の生中継、ケーブルテレビ「ひまわりネットワーク」の生中継及び録画中継で視聴できます。議会の内容については「とよた市議会だより」に掲載しています。



Toyota City Council:

The City Council decides ordinances and budgets necessary for managing municipal administration. Council members gather at four regular meetings per year plus occasional special meetings. Discussions at meetings are broadcast on the City Council website and local cable TV "Himawari Network," as well as via FM Toyota, a local radio station. Related information is also available in the Toyota City Council Newsletter.

人口や面積、予算などのデータを70年前と現在とで比較 豊田市の歩みを数字から紐解きます

Follow the growth of Toyota City by the numbers through comparing population, area, income, and expenditure of now and 70 years ago.

世帯数

1950(昭和25)年

6,473世帯



2021(令和3)年

18万2,282世帯

人口・人口密度

1950(昭和25)年

人口 3万1,996人
人口密度 827人/km²



2021(令和3)年

人口 42万2,026人
人口密度 460人/km²

面積

1950(昭和25)年

38.70km²



2021(令和3)年

918.32km²

予算(一般会計当初予算)

1951(昭和26)年

8,068万4,000円



2020(令和2)年

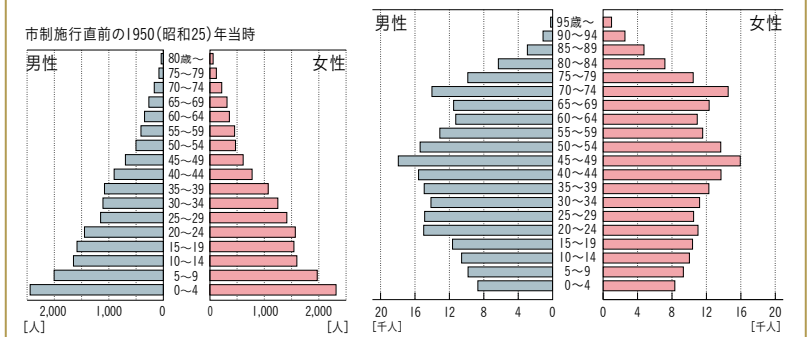
1,826億円

年齢別人口(人口ピラミッド)

1950(昭和25)年

2021(令和3)年

(登録人口/2021(令和3)年1月1日現在)



豊田市が全国に誇るNo.1を紹介します

製造品出荷額等が 全国No.1

2002(平成14)年から連続で全国第1位
(従業者数4人以上の事業所)です。

米の収穫量は 愛知県内No.1

収穫量・作付面積ともに
愛知県内1位を誇る米どころです。

豊田市の No.1

重さNo.1の梨 「愛宕」を生産


2011(平成23)年収穫の「愛宕」が
世界一重い梨(2.948キログラム)として
ギネスブックに登録されました。

蔵書冊数は 中核市でNo.1

約175万冊の図書・雑誌を所蔵。
全国でも有数の蔵書数を誇ります。

簀戸温泉は愛知県内の 温泉で歴史No.1

旭地区の簀戸温泉は、600年以上昔の
室町時代に発見されたといわれています。




とよだ しょういちろう

豊田 章一郎

2011(平成23)年3月5日推挙
2007(平成19)年11月3日桐花大綬章

社団法人経済団体連合会会長等を歴任、日本を代表する経営者として我が国産業経済の興隆及び本市発展に大きく貢献した。




うらの やすおき

浦野 侑興

2013(平成25)年3月2日推挙
2012(平成24)年4月29日旭日重光章

衆議院議員、科学技術庁長官(国務大臣)。1979(昭和54)年から衆議院議員に6期連続当選。国とのパイプ役として活躍し、市の発展に貢献した。




すずき こうへい

鈴木 公平

2013(平成25)年3月2日推挙
2013(平成25)年4月29日旭日中綬章

7代目豊田市長。2000(平成12)年から3期12年にわたって、7市町村合併、都市内分権や市民と行政の共働によるまちづくりの推進など、市の発展に貢献した。




くらち としひこ

倉知 俊彦

2016(平成28)年3月5日推挙
2011(平成23)年11月3日旭日中綬章

愛知県議会議長。1971(昭和46)年から11期44年にわたり愛知県議会議員を務め、地域の発展と住民福祉の向上に尽力し、市の発展に貢献した。




やまうち いっせい

山内 一生

2018(平成30)年3月3日推挙
2007(平成19)年4月29日旭日小綬章

豊田小原和紙工芸作家。小原和紙を美術工芸品として芸術性を高めるとともに、その名を国内外に広めるなど市の産業・文化の進展に貢献した。




ふじしま あきら

藤嶋 昭

2021(令和3)年3月6日推挙
2003(平成15)年11月3日紫綬褒章
2017(平成29)年11月3日文化勲章

東京理科大学名誉教授。「光触媒」を世界で初めて発見。「光触媒」の研究成果による科学技術や産業文化の発展への貢献に加え、市の人材育成や教育振興に貢献した。




にしやま たかし

西山 孝

1990(平成2)年3月3日推挙
1994(平成6)年4月29日勲四等旭日小綬章

5代目豊田市長。1976(昭和51)年から3期にわたり、都市整備、道路網の充実をはじめ都市基盤の整備に貢献した。




たかはし せつろう

高橋 節郎

1998(平成10)年3月7日推挙
1986(昭和61)年4月29日勲三等瑞宝章
1997(平成9)年11月3日文化勲章

漆芸作家。日本国内だけでなく海外でも高く評価されている。多くの作品を市に寄贈し、市の美術文化の向上に貢献した。




とよだ えいじ

豊田 英二

2000(平成12)年3月4日推挙
1990(平成2)年11月3日勲一等旭日大綬章

トヨタ自動車株式会社最高顧問。日本を代表する企業のトップとして卓越した経営手腕を発揮し、豊田市の発展にも大きく貢献した。




とよだ かずこ

豊田 壽子

2000(平成12)年3月4日推挙

財団法人豊田市国際交流協会初代理事長。多年にわたり、福祉活動に尽くし、豊田婦人ボランティア協会、豊田市国際交流協会などの設立に中心的な役割を果たした。




とよだ きいちろう

豊田 喜一郎

2001(平成13)年3月3日推挙
1952(昭和27)年4月勲四等瑞宝章

トヨタ自動車工業株式会社の創業者。本市に自動車量産工場を建設し、国産自動車工業の基礎を確立し、本市発展の基盤を築いた。




かとう まさいち

加藤 正一

2001(平成13)年3月3日推挙
2001(平成13)年11月3日勲四等旭日小綬章

6代目豊田市長。1988(昭和63)年から3期12年にわたって福祉の増進、中核市にふさわしい交流基盤の整備など、本市の発展に貢献した。




ながさか ていいち

長坂 貞一

1968(昭和43)年12月15日推挙
1964(昭和39)年10月21日藍綬褒章

3代目挙母市長。1956(昭和31)年から2期にわたり、鉄工団地の建設など、産業の発展と広域行政に努め、地域開発による都市改造を推進した。




うらの さちお

浦野 幸男

1977(昭和52)年3月1日推挙
1977(昭和52)年1月17日勲一等瑞宝章

衆議院議員、労働大臣。1960(昭和35)年から衆議院議員に6期連続当選。国とのパイプ役として活躍するとともに、市の発展に尽くした。




ほんだ しずお

本多 静雄

1977(昭和52)年3月1日推挙
1964(昭和39)年4月20日藍綬褒章
1973(昭和48)年11月3日勲二等瑞宝章

日本電話施設株式会社相談役。猿投山西南麓の古窯跡群の発見者としても著名。資料や出土品の収集、研究により、郷土文化の振興に寄与した。




さとう たもつ

佐藤 保

1977(昭和52)年3月1日推挙
1983(昭和58)年11月3日勲四等瑞宝章

4代目豊田市長。1964(昭和39)年から3期にわたり地方自治に貢献。東西加茂郡を一体化した広域行政や都市開発に貢献した。




くらち けいたろう

倉知 桂太郎

1985(昭和60)年3月2日推挙
1985(昭和60)年4月29日勲四等旭日小綬章

愛知県議会議長。県議会議員に6期連続当選。猿投グリーンロードの建設に努めるなど、市の発展に力を注いだ。



さかい すずお

酒井 鈴夫

1985(昭和60)年3月2日推挙
1987(昭和62)年4月29日勲三等瑞宝章

愛知県議会議長。県議会議員に5期連続当選。自動車工場の誘致や土地改良事業など、市の活性化に尽くした。



なかなべ はつきち

渡邊 汎吉

1961(昭和36)年3月1日推挙
1967(昭和42)年12月12日勲四等瑞宝章

初代挙母市長。1946(昭和21)年から挙母町長、1951(昭和26)年からの4年間は、挙母市長として市発展の基礎をつくった。

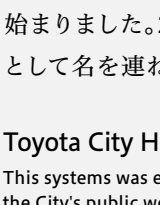


わたなべ はつきち

渡邊 汎吉

1961(昭和36)年3月1日推挙
1967(昭和42)年12月12日勲四等瑞宝章

初代挙母市長。1946(昭和21)年から挙母町長、1951(昭和26)年からの4年間は、挙母市長として市発展の基礎をつくった。




なかなべ はつきち

渡邊 汎吉

1961(昭和36)年3月1日推挙
1967(昭和42)年12月12日勲四等瑞宝章

初代挙母市長。1946(昭和21)年から挙母町長、1951(昭和26)年からの4年間は、挙母市長として市発展の基礎をつくった。




なかなべ はつきち

渡邊 汎吉

1961(昭和36)年3月1日推挙
1967(昭和42)年12月12日勲四等瑞宝章

初代挙母市長。1946(昭和21)年から挙母町長、1951(昭和26)年からの4年間は、挙母市長として市発展の基礎をつくった。




なかなべ はつきち

渡邊 汎吉

1961(昭和36)年3月1日推挙
1967(昭和42)年12月12日勲四等瑞宝章

初代挙母市長。1946(昭和21)年から挙母町長、1951(昭和26)年からの4年間は、挙母市長として市発展の基礎をつくった。



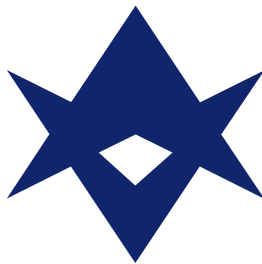
きのした のぶ

木下 信

1962(昭和37)年2月22日推挙
1958(昭和33)年5月3日黄綬褒章

加茂蚕糸販売農業共同組合連合会理事長。1962(昭和37)年まで西加茂製糸株式会社代表取締役を務め、地域の農業育成や養蚕の振興に多くの業績を残した。

市章・市の花・市の木・豊田市民の誓い



市章

1951(昭和26)年11月に制定。豊田市が昔「衣の里」と呼ばれていたことから「衣」の文字を図案化し、旧拳母藩内藤家の紋などに見られる「ひし型」をかたどったもの。

市の花 ひまわり

1965(昭和40)年3月、公募により決定。応募数3,876件の中から、市花制定推進協議会の審議により、最も応募の多かった「ひまわり」に決定しました。



市の木 けやき

1971(昭和46)年3月、市制20周年を記念して公募により決定。応募数4,945件の中から市の木制定協議会の審議により、2,462件の応募のあった「けやき」に決定しました。



豊田市民の誓い

わたくしたちは、七州をのぞむ美しい山河にかこまれ、輝かしい衣の里の歴史と伝統をうけつぎながら、明日に向かって伸びゆく豊田市の市民です。

1. 緑をはぐくみ、川を大切に、豊かな自然を愛しましょう。
1. スポーツに親しみ、教養を高めて、文化の向上につとめましょう。
1. 元気で働き、若い力をそだてて、幸せな家庭をつくりましょう。
1. 互いに助けあい、心の輪をひろげて、あたたかい町をつくりましょう。
1. いのちを尊び、きまりを守って、住みよい社会をつくりましょう。

[1978(昭和53)年3月1日制定]

※七州・・・童子山の城跡から四方を見渡すと、三河の国をはじめ、信濃、美濃、尾張、近江、伊賀、伊勢の国々や山並みを望むことができます。七州とは、この7つの国をさし、現在の愛知、長野、岐阜、滋賀、三重の各県にあたる地域です。拳母城を七州城と呼ぶのもこれに基づくものです。さらに七州は、7つの大陸、7つの大海につながり、洋々たる世界をも意味しています。



市民の誓いシンボルマーク
「ひまわりの種をモチーフに、本文の5項目を明るいうラインで表し、実践活動を通して、わたくしたち市民の手で、豊田市を未来に向かって育て伸ばそう」という意味を表しています。

〈編集後記〉

2019(令和元)年の夏頃からスタートした豊田市制70周年記念誌の制作。当初は、ラグビーワールドカップ2019で盛り上がる市内の取材など、高揚感に包まれながら制作を進めていました。

そうした状況が一変したのが2020(令和2)年。新型コロナウイルス感染症の影響により、市内の「日常」も大きく変化しました。記念誌についても、取材方法や掲載内容など、様々な見直しが必要となりました。

それでも、「市民参画」「未来志向」「後世への継承」という視点は決して外せないという強い思いのもと、試行錯誤を重ねながら制作を進め、「みんなでつくる、ミライのふるさと。」というタイトルに沿った記念誌を完成させることができました。

これもひとえに、コロナ禍という厳しい状況の中でも、快く取材や資料提供などに応じてくださった皆様ののおかげです。

改めて、記念誌の制作にあたり、ご協力いただいたすべての皆様に、制作者一同、厚く御礼申し上げます。

豊田市制70周年記念誌

発 行 日 2021(令和3)年3月1日
編集・発行 豊田市経営戦略部市長公室市政発信課

〒471-8501 愛知県豊田市西町3丁目60番地
TEL 0565-34-6604 FAX 0565-34-1528
<https://www.city.toyota.aichi.jp/>